グリーンシャーク

GS150GH／GHB

取　扱　説　明　書

警告　**本機を取扱う場合は、事前に本取扱説明書を全部読んで十分理解をして機械の運転操作の練習を行い、運転操作に習熟した上で正しく作業を行ってください。各種危険についても、本取扱説明書の注意事項を充分理解してから運転・調整または保守を行って下さい。守られなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。**

読み終わった後は必ず大切に保管し、わからないことがあったときは、取り出して再読してください。なお、エンジン・バッテリにつきましては、同封の各々の取扱説明書をご熟読ください。もし、説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合、販売店より新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管してください。

株式会社　大　　橋

GH　00101号機まで
GHB　00101～00102号機まで
NO. 14509010100
191120

まえがき

大橋 樹木粉砕機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本機を快適かつ効果的に取扱いいただくためには、毎日の作業点検と定期的な点検整備が大事です。人間でいえば健康診断のようなもの、機械をいつも最良の状態にし、事故や故障を未然に防ぐことが大切です。日頃から義務として、点検を怠らないようにしましょう。

また、ちょっとした故障でも早期発見するよう心がけ、大きな故障にならないように整備して下さい。機械の調子が悪い時は、無理に使用せず、お買い上げいただいた販売店にお気軽にご連絡下さい。その際、『本機型式と機体番号』を合わせて、ご連絡ください。『本機型式と機体番号』はフレーム後部のラベルに記載しています。

なお、品質・性能向上および、その他の事情で部品の変更を行うことがあります。その際、取扱説明書の内容および写真、イラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますので、予めご了承ください。

目　次

危険防止のために…… 1

ラベルについて…… 5

本機の使用目的・主要諸元…… 11

各部の名称…… 12

運転を始める前に！…… 13

始業点検 …… 13

上手に運転するには（1）…… 15

エンジンの始動のしかた…… 15
発進のしかた…… 17
停止のしかた…… 17
変速のしかた…… 18
旋回のしかた…… 18
トラックへの積み降ろしのしかた…… 19
ロータクラッチの入・切のしかた…… 21
送りローラ操作のしかた…… 22
粉砕モード切替のしかた…… 22
送り速度調整のしかた…… 24
エンジン非常停止のしかた…… 25
排出ダクト…… 26
下方排出と安全ガード…… 27
粉砕のしかた…… 28

上手に運転するには（2）～ナイフの交換手順と注意事項～…… 29

チッパナイフの反転・交換･調整…… 29
受刃の反転・交換･調整…… 30
ナイフの調整…… 31
シュレッダーナイフの取付…… 33
スクリーンの取付…… 34
粉砕作業時の注意点…… 35

定期の点検・整備をするには…… 39

アワメータ…… 39
オイル交換…… 39
パワーパック・パワーパックベルト…… 41
油圧ホース…… 42
走行クラッチ…… 42
駐車ブレーキ…… 43
ブロワベルト…… 44
サイドクラッチ…… 44
ロータクラッチ（ワイヤ・ベルト）… 45
クローラ…… 47
バッテリ…… 48
エンジン…… 50
燃料タンク…… 56

給油・注油するところ…… 57

締付するところ…… 59

作業後の手入れ／長期保管…… 60

作業後の手入れ…… 60
長期保管…… 60
注意…… 62
付属工具一覧…… 62

消耗部品一覧表…… 63

こんなトラブルが起ったら…… 64

送り制御チェック項目一覧…… 65

配線図…… 66

万一の事故に備えて…… 67

お客様へ…… 68

使用手順書…… 69

始業点検表…… 71

危険防止のために

本書及び本機では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を以下の様に分類しています。以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

危　　険
差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
警　　告
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
注　　意
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。

注　　意
1．この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐに取り出せる所に必ず保管して下さい。 2．この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管して下さい。 3．この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合は、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与して下さい。 4．製品を譲渡する場合は、この取扱説明書を製品に添付して下さい。

注　　意
1．本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み、理解してから運転すること。 2．取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、販売店により新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管すること。 3．ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合は、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

1．機械を運転する前に必ず取扱説明書を読んで操作をよく理解して安全に作業をして下さい。

2．取扱説明書でいう機械の「右」及び「左」、「前」及び「後」はオペレータが機械の投入口正面にいることを想定して意味しています。

3．本製品は、子供、体調がすぐれない人、酒気を帯びた人、妊娠中、過労、病気、薬物の影響、その他理由により正常な運転が出来ない人は使用しないで下さい。また大人でも適切な訓練を受けずに運転させないで下さい。

4．作業時および走行時は、前が見にくいため回りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。

5．作業時にはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防音保護具（耳栓）、保護手袋、長袖、長ズボンを着用して下さい。
軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、引き込まれる可能性のあるものは着用しないで下さい。

6．始業前点検や定期的な点検・整備を行って下さい。異常があれば整備し正常な常態で運転をして下さい。
点検・整備・清掃・給油をする時は、エンジンを必ず止めて、ロータの回転が止まっている事を確認し、エンジンキーを取り外してから行って下さい。
取外したカバーは、点検後は必ず元通りに取り付けてから運転して下さい。

7．バッテリ・マフラやエンジン・ベルトカバー内、配線部周辺にごみや燃料の付着があると火災の原因になることがありますので、日常点検をして取り除くようにして下さい。

8．運転は日中または十分な照明のあるときに限定して下さい。

危険防止のために

９．　居眠りや脇見運転はしないで下さい。運転前日は十分な睡眠を取り、運転中でも疲れを感じた場合は運転を中止し休息をとるようにして下さい。

１０.作業は二人以上で行い、単独では行わないようにして下さい。
作業前に作業の手順・作業者の配置・合図の方法などの確認をし運転を始めるようにして下さい。運転中も声をかけ合い互いに安全を確認しながら注意し行って下さい。

１１.発進するときは、前後左右に危険がないか確認してゆっくり発進して下さい。走行中は路面の状況や周囲の状況を把握しながら慎重に運転して下さい。
路肩や軟弱地、傾斜地や起伏の激しい場所等では走行しないで下さい。

１２.路肩を確認できるように除草し、予め進行方向の障害物の除去等を行った上で慎重な運転を心がけて下さい。

１３.坂道での停止は絶対しないで下さい。停止は平坦地にして下さい。

１４.停車するときは、安全で平坦な場所を選んで停車して下さい。

１５.傾斜地での作業はしないで下さい。

１６.たき火などの火のそばで運転しないで下さい。また絶対に火を近づけないで下さい。

１７.機械を後進させるときは、後ろに何もないことを先ず確認し、足元に十分注意し後進させて下さい。

１８.移動するときは、クローラ内に粉砕物等を堆積させないで下さい。誘導輪とクローラの間に挟まった状態では、無理な回転がかかることになりミッション破損の原因となります。

１９.この機械を公道でけん引することはできません。

２０.公道で走行することはできません。移動時はトラック等に積み込んで移動して下さい。

２１.トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進（1速）でゆっくり積み、前進（1速）でゆっくり降ろし転落しないように十分注意して下さい。トラックは辺りが見通しがよい平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをして下さい。
ブリッジは表示積載荷重が本機重量以上の表示のものを18°以内にセットして下さい。

２２.けん引をする場合は、けん引を行うに十分な駆動力と制動力を持った車両を使用して慎重に行って下さい。特に坂道等を下るときは、速度が増さないように慎重に下るようにして下さい。

２３.ユニック等で本機をトラックなどへ積み降ろしを行う場合は、トラックを平坦なところに停車し、駐車ブレーキと車止めをして、バランスに気を付け転落しないように十分注意して下さい。

２４.部品が変形した状態、または部品が欠品になっている状態で、機械を絶対に運転しないで下さい。

２５.改造は一切してはいけません。

２６.エンジンを始動させるときには必ず、オペレータはすべての駆動装置を切ってから行って下さい。
(1) エンジンを始動させる前にエンジンの取扱説明書をよく読んでエンジンについて精通しておいて下さい。
(2) 誰も人を付けないで機械を放置して置くときは、次のことを必ず行って下さい。
① ロータクラッチレバーを「切」位置にします。
② 走行クラッチレバーを「下」位置にします。
③ キーを外します。

危険防止のために

２７.平坦で危険のないところで機械の操作の練習を行い、操作に習熟して下さい。
(1) エンジンの始動、停止とスロットルレバーの調整
(2) ロータクラッチの入切のしかた
(3) エンジン非常停止のしかた
(4) 送りローラ操作のしかた
(5) 走行（前進・後進）、停止、旋回のしかた
(6) 変速のしかた

２８.作業中および刃物の回転中は正面ホッパのチップガードより奥に絶対に手をいれないでください。
短材を投入する場合は棒等で押し込むようにして下さい。

２９.粉砕作業は二人以上で行い、単独では行わないようにして下さい。安全の為、声をかけ合って作業をして下さい。
投入作業は、１人にて行って下さい。
材料の形状によっては、投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、投入口の正面に立たずに、脇に立って作業を行って下さい。

３０.作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないようにして下さい。

３１.機械から離れる時は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンのキーを外して離れるようにして下さい。

３２.粉砕された材料は、排出ダクトより勢いよく排出されます。作業にかかる前に、排出ダクトの排出方向を定め、固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。

３３.ホコリや塵がたちやすい場所での作業時は、作業前に、必ず作業場付近に散水してから作業して下さい。

３４.屋内で作業を行う場合は、ドアや窓を開け十分な換気を行って下さい。排気の一酸化炭素は猛毒です。

３５.作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に停止している事を確認してからエンジンのキーを外して行って下さい。

３６.作業中は、各部点検カバー・ホッパは絶対に開けないで下さい。作業中の点検はエンジンを停止し、回転部分が完全に止まってから行ってください。

３７.フィードボックス・送りローラ取付部に直接ふれないようにして下さい。
ひっかかって、きちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除して下さい。

３８.送りローラの手前で粉砕物が滞留し取出す場合、つまりの原因を解除する場合は、必ずエンジンを停止しロータが完全に停止した事を確認しエンジンキーを取り外ししてから詰まりの除去を行って下さい。

３９.停止中、運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。

４０.前が見にくいため、作業時は、周りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。

４１.エンジン回転中またはロータ回転中に排出口をのぞいたり手や足をいれないで下さい。

４２.異音がしたり、異常を感じたら作業を終了しエンジンを切り回転部の回転を停止させて下さい。

４３.作業終了後の点検・整備の際は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンのキーを外して行って下さい。送りローラに挟まれないように注意して行って下さい。

４４.作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃して下さい。

危険防止のために

４５.機械の点検整備等をするときは必ずエンジンを停止している事を確認し、ロータなどの回転部が完全に停止している事を確認してからエンジンのキーを外して行って下さい。
ナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。

４６.エンジンの点検・整備をするときはエンジンキーを外してエンジンが十分冷めてから行って下さい。

４７.燃料ホースは2年ごとに交換して下さい。

４８.燃料は可燃性が高いので注意して扱って下さい。
(1) 新しい清浄な燃料のみ使用して下さい。
(2) 油は決められた燃料容器を使用し、この燃料容器の口はタンク注入口に挿入できるものでなければなりません。挿入できないものであれば、専用の給油ポンプを使用して下さい。
(3) 給油する際はエンジンを停止して、２分以上冷却してください。スパークプラグ、エンジン本体やエキゾーストパイプにガソリンをこぼさないよう特に注意してください。エンジン始動時の火花による引火や温度上昇による引火のおそれがあります。
(4) エンジン回転中、または熱い間はキャップを外してエンジンに燃料を給油しないで下さい。燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取って下さい。

(5) 屋内でタンクに燃料を入れたりしないで下さい。
(6) 燃料を洗浄剤として使わないで下さい。
(7) 燃料を扱っているときは、換気の良い所で行い、火気の近くやくわえタバコではしないで下さい。
(8) 裸照明は絶対にしないで下さい。
(9) 裸火のある場所または火花を発生する装置の近くに燃料容器を保管しないで下さい。

４９.２人以上で整備をするときは声を掛け合い、けがのないよう十分に注意して行ってください。

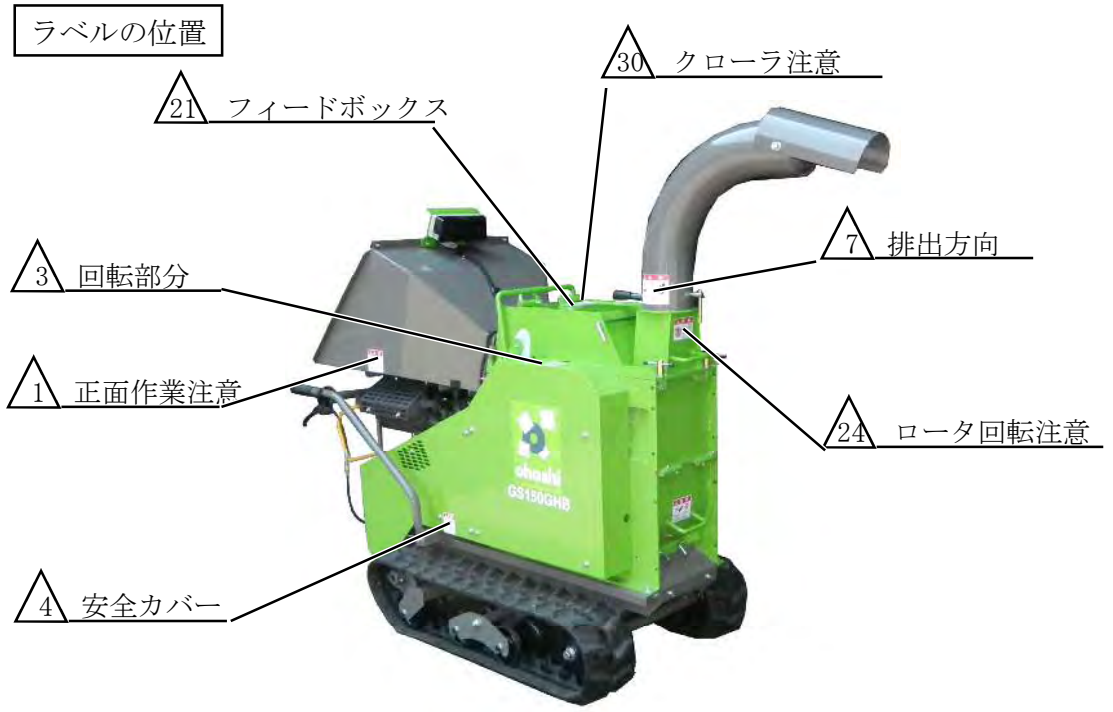
５０.作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃して下さい。

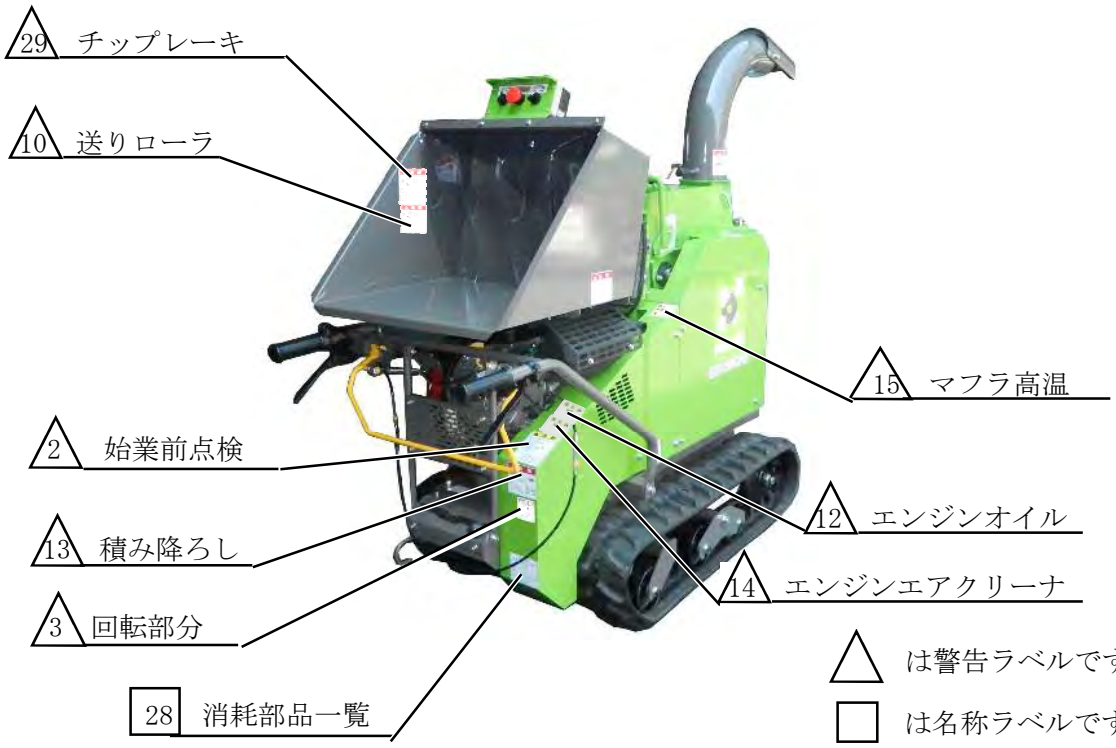
５１.屋内に機械を保管するときはエンジンが冷めた事を確認し保管して下さい。
必ずキーを外しておいて下さい。
シートカバーを掛ける時はエンジンが熱いときは掛けないで下さい。エンジンが冷めた事を確認し掛けて下さい。

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある個所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持して下さい。

ラベルの位置





△ は警告ラベルです

□ は名称ラベルです

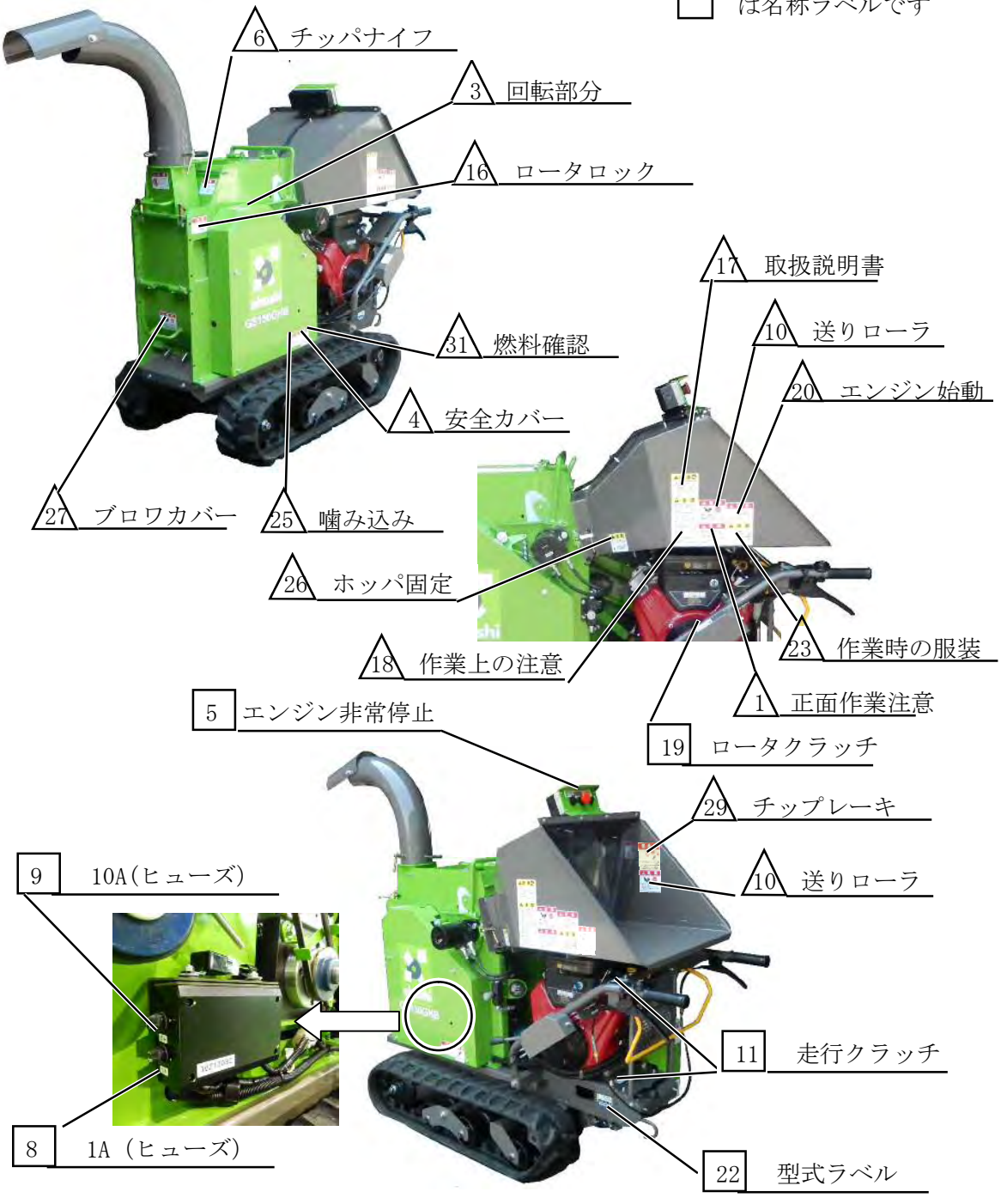
ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある個所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持して下さい。

ラベルの位置

△ は警告ラベルです

□ は名称ラベルです



ラベルについて

1 正面作業注意

2 始業前点検

3 回転部分

4 安全カバー

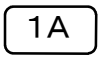
6 チッパナイフ

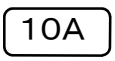
7 排出方向

5 エンジン非常停止

ラベルについて

8　１Ａ　　9　１０Ａ

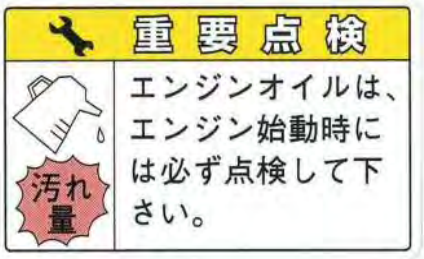




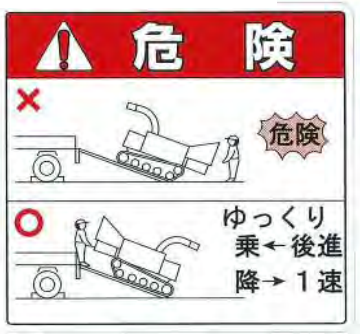
10　送りローラ

11　走行クラッチ

12　エンジンオイル



13　積み降ろし



14　エンジンエアクリーナ

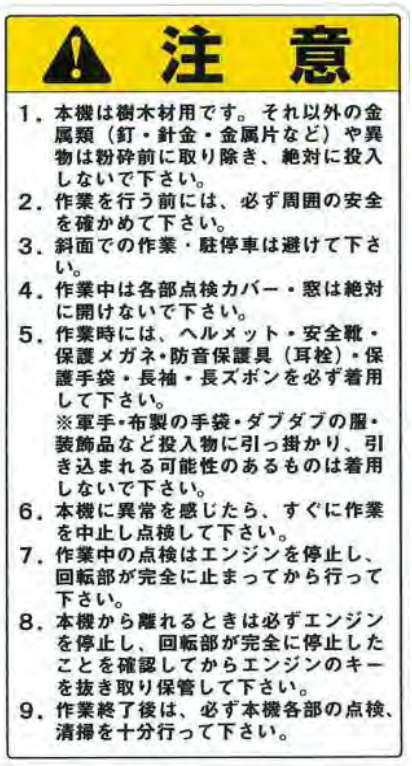
15　マフラ高温

16　ロータロック

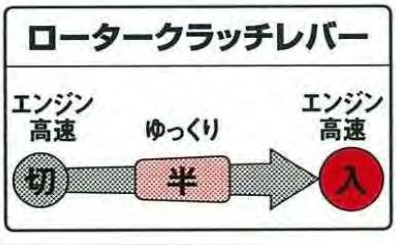
17　取扱説明書

ラベルについて

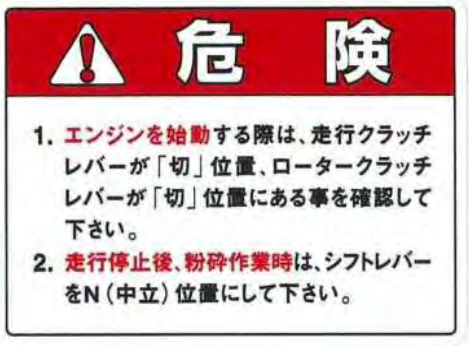
18 作業上の注意



19 ロータクラッチ



20 エンジン始動



21 フィードボックス

22 型式ラベル

23 作業時の服装

24 ロータ回転注意

ラベルについて

25 噛み込み

26 ホッパ固定

27 ブロワカバー

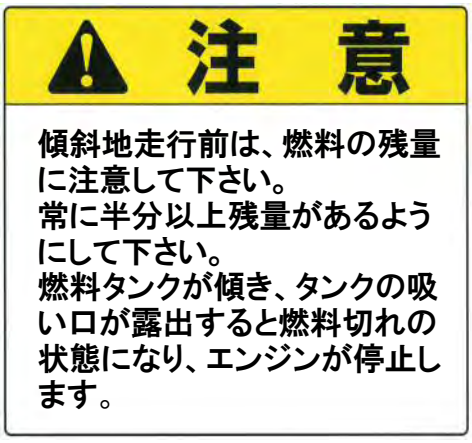
28 消耗部品一覧

消耗部品一覧		
品　名	サイズ・ナンバー	数／台
ロータベルト	4R3V−800	1
走行ベルト	SA−38	1
パワーパックベルト	3V−425	1
ブロワベルト	2R3V−400	2
エンジンオイル	SF級以上、SAE30	1.0リットル（ゲージ付）
走行ミッションオイル	ギヤオイル# 80	0.7リットル
パワーパックオイル	ISO　VG46 相当粘度	3.0リットル

29 チップレーキ

30 クローラ注意

31 燃料確認



本機の使用目的・主要諸元

本機の使用目的

本機は、平坦地での使用を前提とし、樹木材を粉砕、減容化する事を目的とした機械です。土・砂・石・金属・ビン・樹脂・焼き物等は絶対に混入しないで下さい。
本機を使用目的以外に使用しないで下さい。

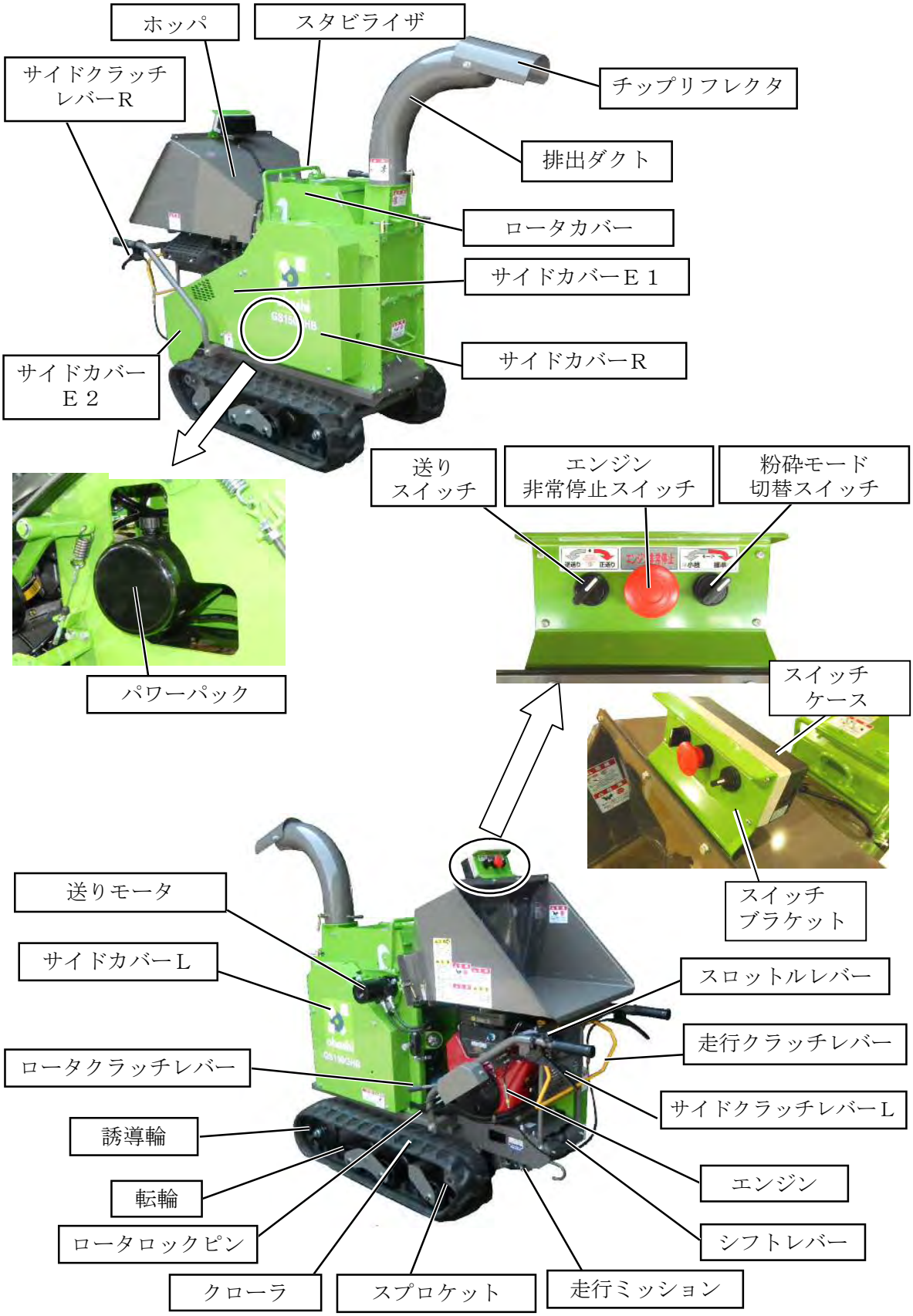
主 要 諸 元

品　　名	樹木粉砕機
型　　式	ＧＳ１５０ＧＨ／ＧＨＢ
全長×全幅×全高	（本体）１５６０×７２０×１３６５mm
	（ダクト使用時）　２０１５×７２０×１５６０mm
重　　量	４２４ｋｇ
駆　動　方　式	ベルトクラッチ・Ｖベルト
処　　理　　径	最大　１５０mm（軟質材）
破　　砕　　刃	チッパナイフ２枚・受刃・シュレッダーナイフ８枚
付属スクリーン	３０mmスクリーン
ホ　ッ　パ　口　径	５６０×３３０mm
送　り　装　置	油圧モータ方式（自動制御付）
排　出　方　式	ブロワ空気搬送式
ダ　ク　ト　高　さ	１６５０mm
排　出　角　度	可変式
走　行　方　式	ゴムクローラ自走式
走　行　速　度	Ｆ１速１．２　Ｆ２速２．５　Ｒ１．４ｋｍ／ｈ
エ　ン　ジ　ン	ブリッグス&ストラットン　３８６４
最　大　出　力	２３．０（１６．９）ｐｓ（ｋｗ）
燃　　料	自動車用無鉛ガソリン（燃料タンク１５．０リットル）

＊この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。
　尚エンジンにつきましては、エンジン取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

機械を見ながら名称を確認ください。



運転を始める前に

機械を調子よく保ち効率的に作業ができるように毎日の作業前には必ず点検・整備を行いましょう。

注意

安全に運転する為・燃料への引火防止のために、次のことを厳守して下さい。

1．点検をする時はロータクラッチレバーを**「切」**位置、シフトレバーを**ニュートラル**位置にし、駐車ブレーキをかけてから行って下さい。
2．本機は樹木材用です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片・ロープ・ひも・土・砂・石・セメント・ビンなど）や異物は粉砕前に取り除き、絶対に投入しないで下さい。
3．作業を行う前には、必ず**周囲の安全**を確かめて下さい。（公園など、公共施設での作業の場合は、特に周囲の安全確認を徹底して下さい。
4．**斜面**での作業・駐停車はしないで下さい。
5．作業中は**各部点検カバー**は絶対に開けないで下さい。
6．作業時には、**ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボン**を必ず着用して下さい。
7．軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、**引き込まれる可能性**のあるものは着用しないで下さい。
8．エンジンを始動する際は、走行クラッチレバー「下」位置、ロータクラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。
9．**異常**を感じたら、すぐに作業を中止し点検して下さい。
10．作業中の点検はエンジンを停止し、**回転部が完全に止まってからエンジンキーを取外ししてから行って下さい。**
11．本機から離れるときは必ずエンジンを停止し、回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンキーを抜き取って下さい。
12．作業終了後は、必ず本機各部の**点検・清掃**を十分行って下さい。
13．エンジン**回転中**やエンジンが**熱い間**は注油・給油及び点検整備は絶対してはいけません。
14．燃料の運搬や補給などの取扱い時は、**くわえ煙草・裸照明**は絶対してはいけません。
15．操作系の点検は一部試走確認点検が必要であるため、平坦で広く障害物のない**安全な場所**で行って下さい。その際整備が必要な場合は1.項目内容を厳守して下さい。
16．取外したカバー類は、**元通りに**装着して下さい。

始業点検

NO.	ここを		こんな点検をして	こう処置する
1	エンジン	燃料タンク	必要な量の燃料があるか 燃料もれはないか	補給する。整備する。 ・レギュラガソリン（15L）
		クランクケース	検油ゲージの上下刻線の間に油量があるか。汚れていないか	補給する。汚れがひどければ交換する。 ・ ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量（1.0L） ・ SF、SG、SH、SJ及びこれ以上の高品質なオイルを使用して下さい。オイル粘度は外気温4℃以上でSAE30のオイルを使用して下さい。 ※エンジン取扱説明書参照
		エアクリーナエレメント	ゴミの付着や汚れがないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する。 エンジン取扱説明書参照

運転を始める前に

始　業　点　検

NO.	こ　こ　を		こんな点検をして	こう処置する
2	操作系	ロータクラッチレバー	入切が確実に行えるか	適正に調整する
		走行ｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ（駐車ﾌﾞﾚｰｷ）	遊びしろは適正か ブレーキの効きは十分か	適正に調整する
		ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	左右の旋回はスムーズに行えるか	適正に調整する
3	ロータ		ベアリングユニットのグリース給脂はよいか	給脂する
4	チッパナイフ		取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする（締付トルク110N・m） 反転、又は交換する
5	受刃		取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする（締付トルク110N・m） 反転、又は交換する
6	走行ミッション		オイルは規定量入っているか	補給する ・ギヤオイル＃80（0.7L）
7	クローラ		張りは適正か スチールコード・ゴムの破損、劣化はないか	張りを正しく調整する 交換する
8	ロータベルト		張りは適正か 磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
9	ブロワ		ベアリングユニットのグリース給脂はよいか	給脂する
10	ブロワベルト		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
11	パワーパック（ﾀﾝｸ付油圧ﾎﾟﾝﾌﾟ）		オイル漏れは発生していないか 取付ボルトのゆるみはないか オイルは規定量入っているか	オイル漏れは増締めして様子を見る 増締めする 補給する 油圧作動油ISOVG46相当粘度(3ﾘｯﾄﾙ)
12	パワーパックベルト		張りは適正か 磨耗やほつれはないかほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
13	油圧ホース・油圧系各部		オイル漏れは発生していないか、切れ、磨耗、ねじれ、接合部のゆるみはないか	新品と交換する 接続部のゆるみ、オイル漏れは増締めして様子を見る
14	重要なボルト・ナット・ エンジン取付ボルト ・ロータハウジング取付ボルト ・ロータカバー固定ナット		取付ボルト・ナットのゆるみはないか	増締めチェックする
15	各ワイヤ・レバー・支点及び磨耗部・しゅう動部		潤滑油が不足していないか 適正に作動が行えるか	適量注油する 適正に調整する ギヤオイル＃80、WD-40など

※処置をしても直らない場合は、販売店へご相談下さい。

上手に運転するには（１）

⚠ 注　意

■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。
1．エンジンオイル量
2．エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3．作動油タンクのオイル量
4．燃料タンクの油量
5．各部の油もれ
6．車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
　1）ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
　2）チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
　3）シュレッダーナイフ軸のゆるみ
　4）排出ダクト固定ナットのゆるみ
7．ベルトの張り具合、摩耗やほつれ

⚠ 危　険

1. **エンジンを始動**する際は、走行クラッチレバーが「切」位置、ロータークラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。
2. **走行停止後、粉砕作業時**は、シフトレバーをN（中立）位置にして下さい。

注　意

エンジン始動をする際、エンジン非常停止スイッチが押されていないか確認して下さい。
エンジン非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。（スイッチが元の位置に飛び出します。）

エンジン非常停止スイッチ

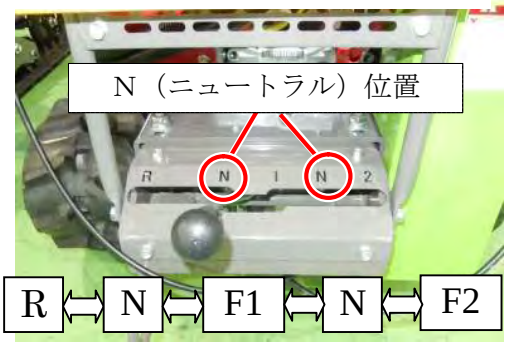
エンジンの始動のしかた

1．走行クラッチレバーを「下」位置にして下さい。（駐車ブレーキも同時に入ります。）

走行クラッチレバー

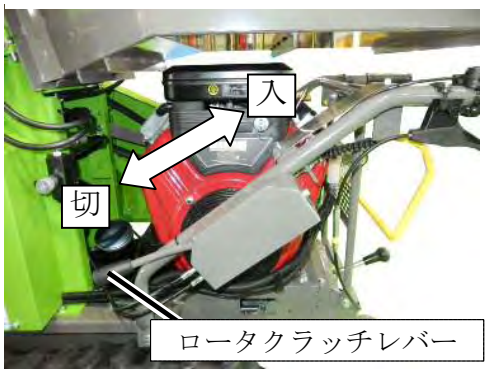
2．シフトレバーを「ニュートラル」位置にします。

シフトレバー



3．ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

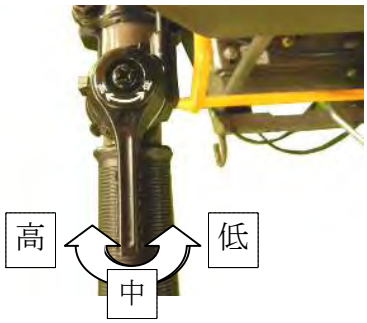
ロータクラッチレバー



上手に運転するには（１）

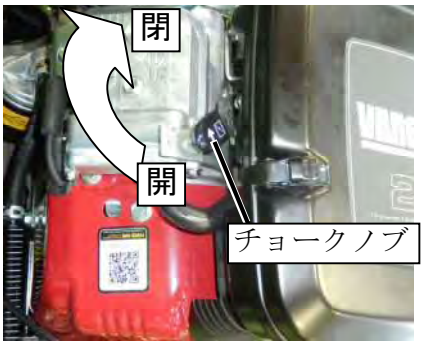
４．スロットルレバーを「中」位置にして下さい。

スロットルレバー



５．チョークノブを「閉」位置にして下さい。

エンジン



６．エンジンキーを右に回し『ＯＮ』 位置にして下さい。更に右へ回し『ＳＴＡＲＴ』位置に入れエンジンが始動したらすぐ離して下さい（キーは『ＯＮ 』位置に止まります）。キーを『ＳＴＡＲＴ』位置に5秒以上入れないで下さい。

注　意

セルモータの寿命を延ばすためにも、短い時間で回して下さい。
始動しない場合は、1分以上空けてから再度始動して下さい。

７．エンジンが始動したらチョークノブを徐々に「開」位置にして下さい。

注　意　１

チョークノブはエンジンの調子をみながら徐々に戻し、最後に必ず全開にして下さい。

注　意　２

寒いときまたはエンジンの冷えているとき、急にチョークノブを戻すと、エンジンが停止することがあります。ご注意下さい。

８．エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分程低速で**暖気運転**をして下さい。

注　意

『ＳＴＡＲＴ』始動を３回以上行っても始動しないとき、続けて何回も『ＳＴＡＲＴ』始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークノブを「開」にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてから『ＳＴＡＲＴ』始動して下さい。

上手に運転するには（１）

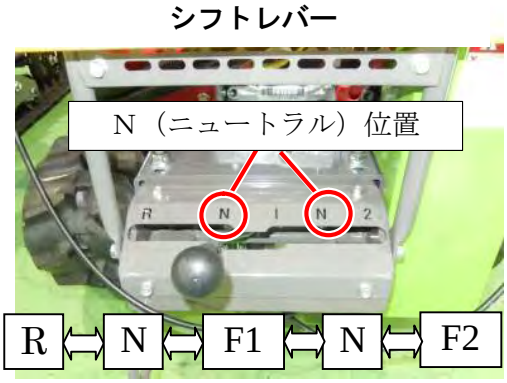
発進のしかた

１．走行クラッチレバーが「下」位置にあることを確認して下さい。

走行クラッチレバー

２．シフトレバーを「Ｆ１：前進１速」、「Ｆ２：前進２速」、「Ｒ：後進」のいずれかの位置にして下さい。

シフトレバー



３．走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

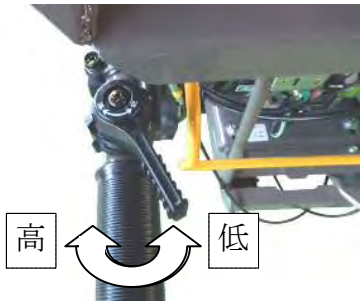
４．スロットルレバーの位置を変えて速度を調整します。

スロットルレバー

停止のしかた

１．スロットルレバーを「低」位置にして減速します。

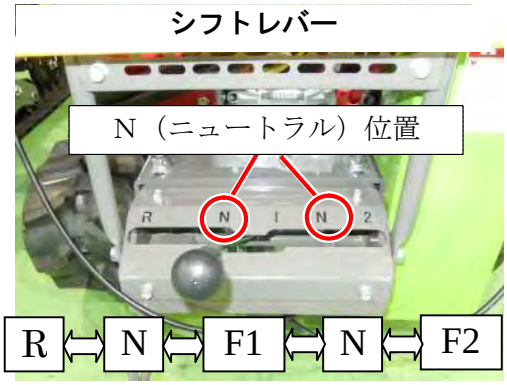
スロットルレバー



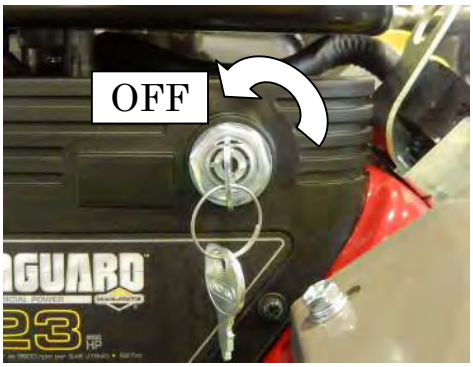
２．走行クラッチレバーを「下」位置にし、平坦地に停車します（同時に駐車ブレーキが掛かります）。

３．シフトレバーを「Ｎ（ニュートラル）」位置にします。

シフトレバー



４．エンジンキーをＯＦＦの位置にし、エンジンを停止します。

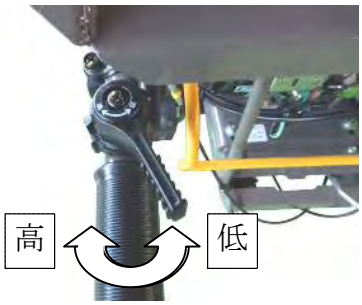


上手に運転するには（１）

変速のしかた

１．スロットルレバーを「低」位置にします。

スロットルレバー



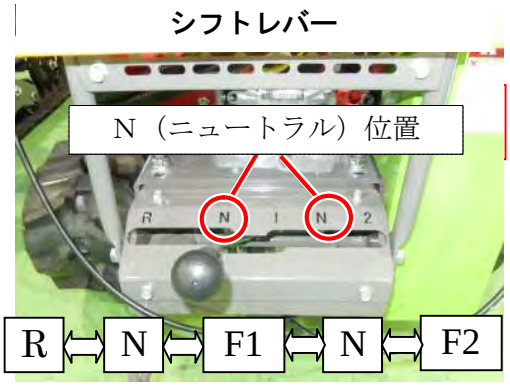
２．走行クラッチレバーを「下」位置にして停車します。

走行クラッチレバー

３．シフトレバーを作業に適した位置に入れます。

「F」…前進　　「R」…後進

シフトレバー



４．走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

５．スロットルレバーの位置を前後して速度を調整します。

注　意　１

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しており、走行クラッチレバーを「下」位置にすると自動的に駐車ブレーキがかかり、「上」位置にすると解除します。

注　意　２

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しているために、チェンジが入りにくい場合があります。

注　意　３

変速は必ず走行クラッチレバーを「下」にしてから操作して下さい。

旋回のしかた

１．　左旋回する場合は、サイドクラッチレバーＬを握り込んで下さい。左側のクローラが停止し、機体は左旋回します。

２．　右旋回する場合は、サイドクラッチレバーＲを握り込んで下さい。右側のクローラが停止し、機体は右旋回します。

サイドクラッチレバー

注　意　１

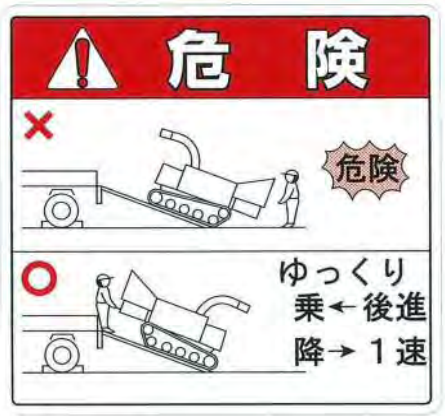
左右のレバーを同時に握り込むと走行は停止します。

注　意　２

下り傾斜の場合は、逆操作になる場合がありますのでご注意下さい。

上手に運転するには（１）

トラックへの積み降ろし



危　険

- トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進(1速)でゆっくり積み、前進(1速)でゆっくり降ろし転落しないように十分注意して下さい。
- トラックは平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをして下さい。
- ブリッジは表示積載荷重が本機重量以上の表示のものを18°以内にセットして下さい。

１．積み降ろしのしかた

(1) 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、操作して下さい。

(2) トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。

(3) 基準に合ったブリッジを使用して下さい。左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行って下さい。

２．ブリッジ基準

(1) ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。

(2) 長さは、トラック荷台までの高さの３．５倍以上あるものを使用して下さい。

(3) 幅は、本機のクローラ幅にあったものを使用して下さい。

(4) 強度は、本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るものを使用して下さい。

(5) 表面は、スリップしないように表面処理が施されたものを使用して下さい。

警　告　1

運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。

警　告　2

トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。

警　告　3

ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。

警　告　4

トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速はしないで下さい。

警　告　5

本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。

警　告　6

トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「下」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けて下さい。

警　告　7

本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。

警　告　8

原則として、積み込む場合は後進「１」位置、降ろす場合は前進「１」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。さらにスロットルレバーは「低」位置にし、ゆっくりと行って下さい。

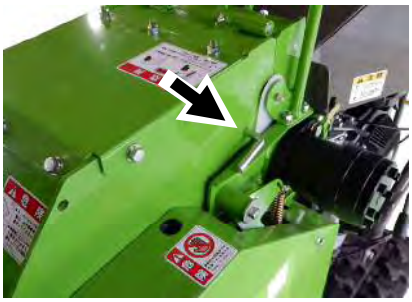
上手に運転するには（１）

注　　意

(1) 一点吊フックを使用する場合は、下図（矢印部分）についているツリセットピンを外します。

ツリセットピン

(2) 外したものを下図の位置に取付けます。



(3) 吊作業が終わったら、ツリセットピンは元の位置に戻して下さい。

ツリセットピン

上手に運転するには（１）

ロータクラッチの入・切にしかた

１．ロータクラッチが、確実に切れている事を確認してからエンジンを始動させ、スロットルレバーを「高」位置にして、エンジン回転をフルスロットルにします。

２．ロータクラッチレバーを「切」と「入」の中間位置（半クラッチ）にゆっくり倒し、エンジン音、ブレ等の様子を見ながら、エンジンが大きくブレない位置で保持します。

ロータクラッチレバー

３．ロータ（粉砕部）とブロワの回転上弁に伴い風切音が徐々におおきくなるのを確認して下さい。
※ チップがナイフやブロワの羽根にひっかかって回転始動しない場合があります。回転しない状態で「入」へ保持を続けるとベルトが焼損します。

４．ロータ回転が上昇し定速になるまでロータクラッチレバーを保持します。

５．定速になったら、ロータクラッチレバーを「入」位置に向けてゆっくり倒します。

６．**粉砕作業はエンジン回転数を最高まで上げて作業を行ってください。**

注　　意

急に接続するとエンストを起こしたり、ベルトの破損につながりますので、クラッチ操作は必ずゆっくり行って下さい。

７．ロータを停止させる場合は、ロータクラッチレバーを「切」位置にすると、ロータは停止します。
その際にスロットルレバーを「低」位置にするとエンジンブレーキがかかり、ロータの回転をはやく低下させることが出来ます。ロータの回転を十分落としてからロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

上手に運転するには（１）

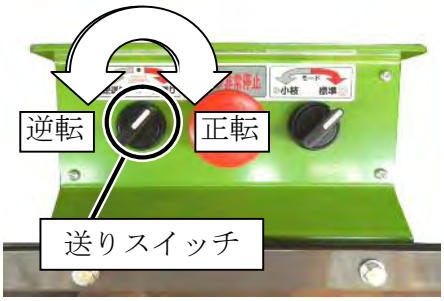
送りローラ操作のしかた

１．送りスイッチを「右」位置にすると送りローラは正転し材料をローラ内部へ搬送します。

２．送りスイッチを中立位置にすると送りローラは停止します。

３．送りスイッチを「左」位置にすると送りローラは逆転し材料を排出します。

送りスイッチ



注　　意

この機械に投入出来る材料は最大で直径１５０ｍｍまでです。それ以上大きい材料がある場合は、投入前に材料を薪割機等で小さく(細かく)してから作業を行って下さい。

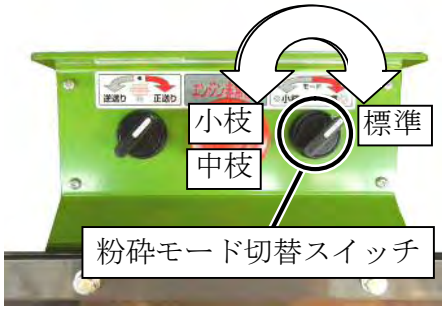
注 意 ２

送りローラは、マイコンで自動送り制御しています。
負荷によりエンジン回転が落ちると送りローラは自動停止し、エンジン回転が復帰すると回転します。
粉砕作業は、粉砕モード切替スイッチの標準モードではスロットル全開で粉砕作業を行います。
小枝モードはスロットル中速域で粉砕作業を行います。（省エネ運転）

粉砕モード切替のしかた

１．非常停止ボタン右側にある粉砕モード切替スイッチおよびスロットルレバーを操作することにより樹木の太さに合った粉砕モードに切替ます。
粉砕モードの選定は以下を参考にして下さい。

粉砕モード切替スイッチ



・スイッチ右方向：標準モード
粉砕物直径が５～６ｃｍ程度以上の場合や硬い材質の場合には標準モードでスロットルレバーは高速で粉砕して下さい。
・スイッチ左方向：小枝ﾓｰﾄﾞ(中枝ﾓｰﾄﾞ)
小枝モードはエンジン回転を感知して自動で**２段階**の動きをします。
・小枝モード
６cm程度までの樹木の粉砕向きの方式
３つのモードの中で一番低回転・燃料消費低
※小枝モード時、上部排出はしないで下さい。つまりの原因やベルト破損に繋がります。
・中枝モード(ｴﾝｼﾞﾝ回転を上げていくと移行)
６～１０cmの樹木の粉砕向きの方式
小枝と標準のモードの中間の回転・燃料消費量は中程度

※竹の粉砕について１
１０cm程度までの竹の粉砕は中枝モードでフルスロットルが適します。

※竹の粉砕について２（要竹粉オプション
竹の微粉砕時は標準モードのフルスロットルで作業してください。

※排出ダクトからの勢いが弱くつまりそうな場合は、回転を上げて下さい。

上手に運転するには（１）

２．切替の操作

・小枝から中枝
　エンジン回転を徐々に上げていきます。

・中枝から小枝
　エンジン回転を送りローラが停止するところまで徐々に下げていきます。停止して５秒後に送りローラが回転するまで徐々にエンジン回転を上げて下さい。

参　考

各モードの送りローラが回転開始するスロットル位置
（全開を１０としたとき）

モード	スロットル位置（回転数）
標準	１０（３，６００）
中枝	９（３，２００）
小枝	８（２，８００）

注 意 １

粉砕物直径が５～６ｃｍ以下の樹木でも多くを束ねて粉砕する場合には、標準モードで粉砕して下さい。

注 意 ２

粉砕物直径が10ｃｍ以上の樹木は標準モードに切替えてスロットルを高速(エンジン全開)で粉砕して下さい。

注 意 ３

小枝モードで送りスイッチを「右」位置（正転）にしても送りローラが回転しなければ、スロットルを少しずつ上げていき回転し出した位置から少し開けて下さい。

上手に運転するには（１）

送り速度調整のしかた

※この操作はＧＳ１５０ＧＨＢまたはオプションで送り速度調整ダイヤルを取り付けた場合の操作です。

作業条件（スクリーンサイズ、投入材料の径、硬さ等）や粉砕結果を見て送り速度を調整して下さい。
送り速度は送り速度調整ダイヤルで調整出来ます。

送り速度調整ダイヤル

時計回り：送り速度は速くなります。
反時計回り：送り速度は遅くなります。

※５㎜・８㎜ スクリーンをつけた場合のダイヤル調整方法は、送り調整ダイヤルを左方向（遅く）へ全部回し、投入口に直径７ｃｍ前後の竹や木を投入し、下記の要領で行ってください。

5ｍｍ・・・
　右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから更に**１回転**させてダイヤルロックピンで固定します。
8ｍｍ・・・
　右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから更に**２回転**させてダイヤルロックピンで固定します。

重　要
投入する材料の粉砕状況を見てダイヤルの調整を行って下さい。ホッパからの粉砕物の戻りが多い場合はロータ内に粉砕物がたまりエンジンの停止につながりますので、送り速度を遅くして下さい。

注　意　１
標準モードで標準スクリーンを使って作業する場合は、ダイヤルを速くなる方向へいっぱいに回します。

注　意　２
「遅」の方へ回しすぎると送りローラが空転しても、材料を投入すると送りローラに負荷がかかることで送り込みが停止する場合があります。「速」のほうへ微調整すると送り込むようになります。

注　意　３
「極遅」作業の場合は、油温上昇に伴い送り速度の「速」の方への微調整が必要となります。
※ 油温上昇により、オイルの粘度が低下して速度調整油量が増加し、送りモータへの油量が零となり送りローラが回らなくなることがあります。

上手に運転するには（１）

エンジン非常停止のしかた

１．エンジンスイッチを押すと、エンジンが停止します。

２．エンジン非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。（スイッチが元の位置に飛び出します。）

エンジン非常停止スイッチ

注 意 １

エンジン非常停止スイッチを押して、エンジンが完全に回転停止する前にエンジン非常停止スイッチを解除すると、エンジンは再始動しますので注意して下さい。

注 意 ２

エンジン非常停止スイッチを押したままだとセルモータは回るが、エンジンはかかりませんので、その場合はエンジン非常停止スイッチを解除して下さい。

エンジンを再始動する場合は次の手順で行って下さい。

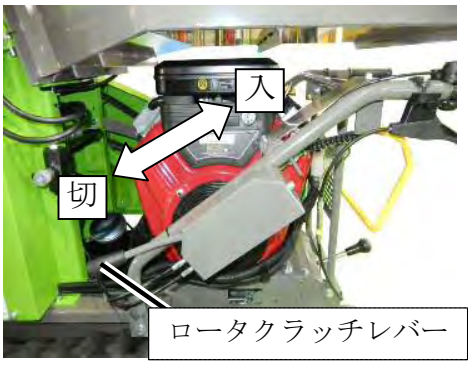
１．エンジン非常停止をした原因を確認処置します。

２．スロットルレバーを「低」位置にします。

スロットルレバー

３．ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

ロータクラッチレバー



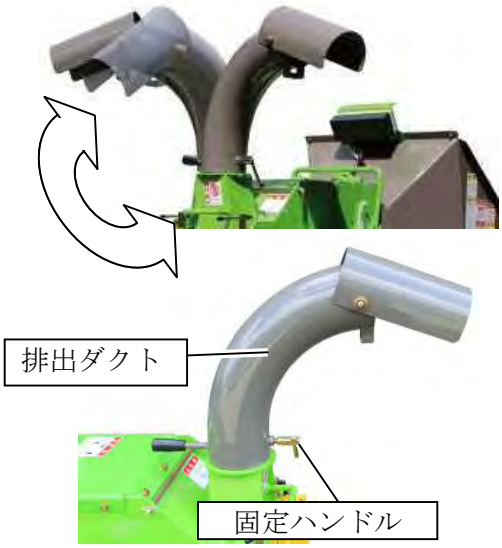
４．Ｐ１５『エンジン始動のしかた』の手順でエンジンをかけてください。

上手に運転するには（１）

排出ダクト

・排出ダクトの固定と排出方向

１．粉砕された材料は、ダクトより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。
　作業に入る前に、ダクトの排出方向を定め、作業中にダクトが動かないように固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。



注 意 1

粉砕した材料の排出方向は、エンジンがほこりを吸い込み、トラブルが発生することを避けるために、風向きを考慮し作業位置を工夫して、出来るだけエンジン側にほこりがこないようにして下さい。

注 意 2

前が見えにくいため、作業時および走行時は、回りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。

注 意 3

作業中詰まった場合の除去方法（P35参照）
～排出ダクトや、ロータ、ブロワにつまった場合～

(1) エンジン停止、キーを外して下さい。

(2) ロータ、ブロワ、排出ダクトからつまりを取り除いて下さい。

注 意 4

小枝モード時に上部排出はしないで下さい。詰まりやベルト破損の原因になります。

・ロータカバーを開ける時

排出ダクトは重量があり、排出ダクトをつけたままロータカバーを開けるとダクトの脱落やロータカバーの破損につながる可能性があります。
また、スイッチケースにあたり、破損にもつながりますのでロータカバー開ける時には必ず排出ダクトを取り外してから開けるようにして下さい。

１．排出ダクトの固定ハンドルを緩めてください。

２．排出ダクトを取り外しして下さい。

上手に運転するには（１）

下方排出と安全ガード

オプションの安全ガードを取り外し、排出口へ付替えをする事により、下方より排出が可能になります。
水分率が高い物や少しぬれた物などは下方より排出して下さい。

注 意 1

※上下同時排出は出来ません。
※下方排出の場合は安全ガードは必ず装着して下さい。

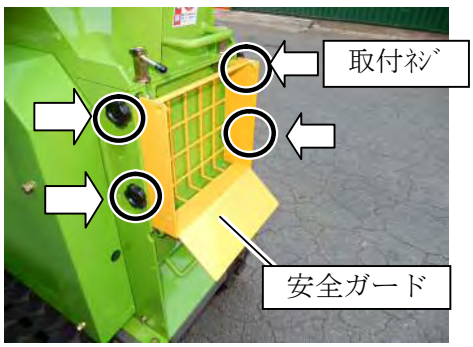
注 意 2

下方排出の場合は安全ガードにつまる場合がありますので排出状況に注意して下さい。

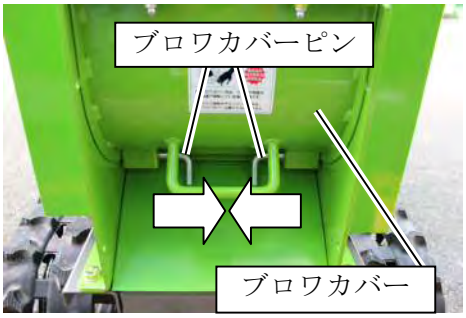
注 意 3

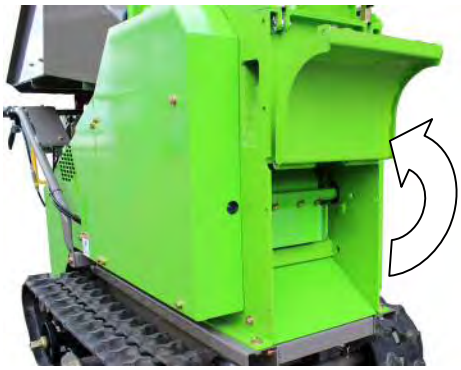
安全ガードのつまりを除去する場合は作業を中断し、エンジン停止・ロータの回転が完全に停止したのを確認し行って下さい。

１．ブロワ回転停止している事を確認し、エンジンを停止して下さい。
両側についている取付ネジをゆるめ安全ガードを取外してください。

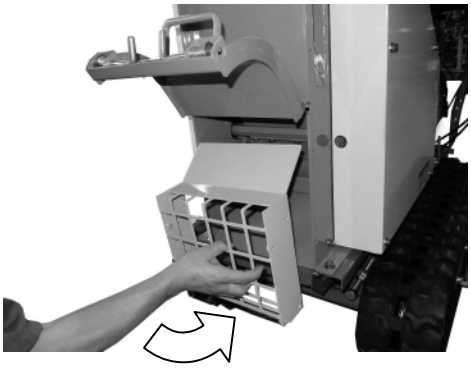


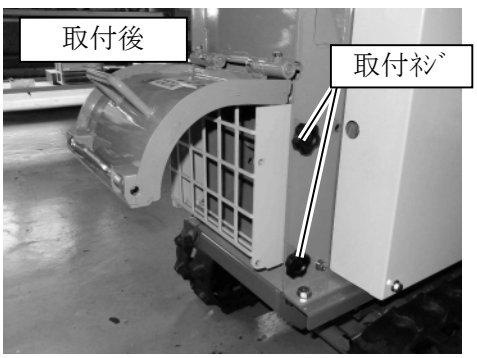
２．ブロワカバーにあるブロアカバーピンを引き出して開けて下さい。





３．安全ガードを挿入し、取付ネジを締めて下さい。





上手に運転するには（１）

粉砕のしかた

１．粉砕作業は平坦地を選び走行レバーが「切」位置、シフトレバーが「N（ニュートラル）」の位置にあることを確認してください。

２．ロータクラッチを「ロータクラッチの入・切のしかた」（Ｐ２１参照）の手順で「入」にします。

３．送りスイッチを正送り側へまわし、粉砕物にあった粉砕モードを選択します。（Ｐ２２「送りローラ操作のしかた」、「粉砕モード切替のしかた」参照）

４．粉砕作業を開始します。

注 意 １

ホッパから投入できる材料は最大で直径１５０ｍｍです。それ以上大きな材料の場合は、投入前に材料を小さく（細かく）してから作業を行ってください。

注 意 ２

材料を投入する際に材料が暴れたり、粉砕中にホッパから粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、ホッパの正面に立たずに、脇に立って作業を行ってください。

注 意 ３

粉砕作業の注意点・・・Ｐ３５参照
- 投入物の注意点
- 詰まった場合
- その他

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

注　　意
１．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止しエンジンキーを外してから行って下さい。 ２．点検は、回転部が完全に止まってから行って下さい。 ３．チッパナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用し、けがのないよう十分注意を払って下さい。 ４．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい。

チッパナイフの反転・交換

チッパナイフが切れなくなると、エンジンに負荷がかかり、チップが詰まりやすくなったり、騒音や振動が激しくなり、機械各部やベルトにも無理がかかり、寿命が著しく短くなりますので、定期的にロータカバーを開け、チッパナイフに歯こぼれ，ひび等の異常がないか点検して下さい。

１．排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外して下さい。（Ｐ２６『排出ダクト』参照）

２．ロータカバーの固定ネジを緩めロータカバーを開けて下さい。

３．ロータクラッチレバーを「切」位置にして、ロータを回しロータロックピンが挿せる位置にして下さい。

４．ロータロックピンを「ロック」位置に差し、ロータが回らないようにして下さい。

ﾛｰﾀﾛｯｸﾋﾟﾝ収納位置

ロック位置

５．六角レンチにて六角穴付皿ボルト（４本）を固定し、裏側にあるナットを緩め六角穴付皿ボルト（４本）を外して下さい。

６．チッパナイフを反転、または交換後は、六角穴付皿ボルト（４本）を２枚ともにしっかりと締め付けて下さい。

７．チッパナイフの反転、または交換後は、**ナイフの調整（P.31）**の要領で、必ず受刃の調整を行って下さい。

８．チッパナイフの反転、または交換後は、ロータロックピンとロータカバーを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けて下さい。

９．排出ダクトを元に戻し、固定ハンドルを締めて下さい。

重　　要

受刃の取付け、調整が終わりましたら、必ずロータを手でゆっくり回転させ、チッパナイフと受刃が当らないことと隙間が０．５ｍｍ前後あることを確認して下さい。

注　　意

(1) ナイフ取替え時（反転、研磨の際）はスプリングワッシャを新品と交換して下さい。

(2) ナイフ新品交換の際はボルト・ナット・スプリングワッシャ・座金を新品と交換して下さい。

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

受刃の反転・交換

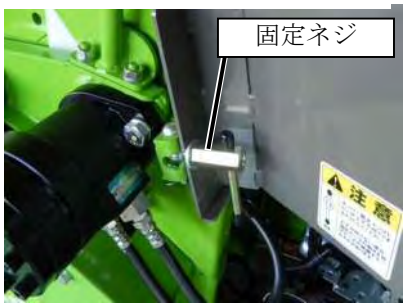
受刃の刃先が丸くなったら受刃を固定している固定ボルト（２本）を外して、反転または交換して下さい。
受刃を反転・交換する場合は、以下の要領で行って下さい。

１．排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外して下さい。（Ｐ２６『排出ダクト』参照）

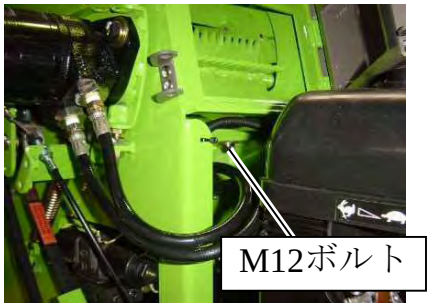
２．ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けて下さい。

３．固定ネジを外して、ホッパを開けて下さい。

ホッパ固定ネジ



４．受刃を下側から固定しているM12の受刃固定ボルト（３本）を外して下さい。



５．受刃を反転、または交換して下さい。

６．**ナイフの調整(P31)**の要領で受刃の調整を行い、M12の受刃固定ボルト（３本）をしっかりと締め付けて下さい。

重　要　1

受刃本体と受刃座面にチップカスやゴミが無いようにしてお取付けください。
チップカスやゴミがあるとしっかりとボルトが閉まらず、機械破損の原因になります。

重　要　2

受刃の取付け、調整が終わりましたら、必ずロータを手でゆっくり回転させ、チッパナイフと受刃が**当らないことと隙間が０．５mmあること**を確認して下さい。

６．受刃の反転、または交換後は、ロータロックピンとロータカバーを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けてください。

注　　意

ホッパ固定ネジはレバーが上下方向でとまるようにしてください。
上下方向でない場合、油圧ホースの動きを妨げホースが破損するおそれがあります。

７．排出ダクトを元に戻し、固定ハンドルを締めて下さい。

上手に運転するには（２）

ナイフの調整（重要）

チッパナイフや受刃の反転・交換を行った場合、必ずエンジンを停止して次の手順でチッパナイフと受刃のすき間を調整して下さい。

・受刃の調整

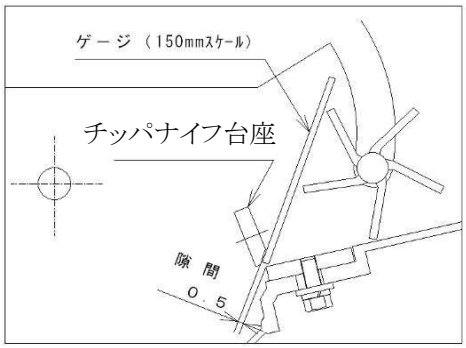
１．排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外して下さい。（Ｐ２６『排出ダクト』参照）

２．ロータカバーを固定しているM10の固定ネジ（２ヶ）を緩めロータカバーを開いて下さい。

３．受刃を下側から止めているM12の固定ボルト（３本）を緩めて下さい。

４．手でロータをゆっくり回して、チッパナイフ台座の先端を受刃の位置で止めます。

５．付属のゲージ（１５０ｍｍスケールの厚み）を使って受刃とチッパナイフ台座の隙間を調整します。（０．５ｍｍ）



６．手でロータをゆっくり回して、２枚のチッパナイフと受刃が当たらないことと、隙間が０．５ｍｍあることを確認して下さい。
調整後は**締め付けトルク 110N･m**で受刃の固定ボルト（3本）の締め付けを行って下さい。

７．調整が済んだらロータカバーを閉め固定ネジをしっかり締めてください。

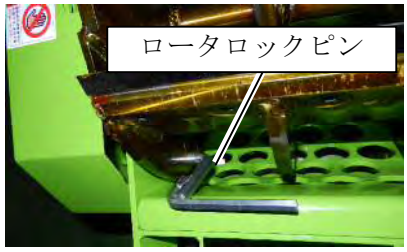
８．排出ダクトを元に戻し、固定ハンドルを締めて下さい。

・チッパナイフの反転・交換

１．排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外して下さい。（Ｐ２６『排出ダクト』参照）

２．ロータカバーを固定しているM10の固定ネジ（２ヶ）を緩めロータカバーを開いて下さい。

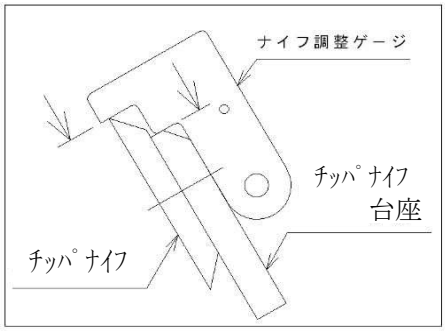
３．ロータロックピンをロータハウジングの内側からロータへ挿して固定します。



４．チッパナイフを固定しているＭ１２のネジ(ナット側４ヶ)を緩めて入れ換えます。

５．Ｍ１２のネジを軽く締めます。

６．付属の調整ゲージ(小)を図のようにチッパナイフ台座に押し当てて、チッパナイフ先端がゲージに接触するように左右を調整しネジ （４ヶ）をしっかりと締めて下さい。



７．もう一方のチッパナイフを同じ要領で調整してください。
調整後、ネジ(４ヶ)を**締付けトルク 110N・m**で締めて下さい。

８．調整が終わったら、ロータロックピンを収納場所に戻し、手でロータをゆっくり回して受刃に当たらないこと、隙間が０．５ｍｍ前後あることを確認して下さい。

上手に運転するには（２）

注　　意

チッパナイフ、受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにして下さい。作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

９．調整が済んだらロータカバーを締め固定ネジをしっかりと締めてください。

１０.排出ダクトを元に戻し、固定ハンドルを締めて下さい。

上手に運転するには（２）

シュレッダーナイフの取り付け

⚠ 危　　険

■ シュレッダーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。

シュレッダーナイフが磨耗した場合は、シュレッダーナイフを固定しているシュレッダーナイフ軸を取外して、取付面を変え鋭利な刃先で材料を粉砕するようにして下さい。シュレッダーナイフは１枚で４角使用できます。シュレッダーナイフの４角の刃先がすべて丸くなったらシュレッダーナイフを交換して下さい。
　シュレッダーナイフを反転・交換する場合は、以下の要領を参考に行って下さい。

１．排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外して下さい。（Ｐ２６『排出ダクト』参照）

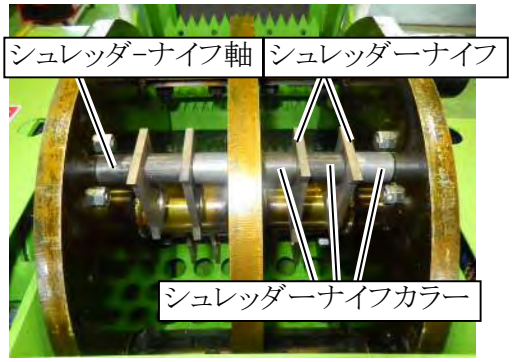
２．ロータカバーの固定ハンドルを緩めロータカバーを開きます。

３．ロータに片側のみシュレッダーナイフジクオサエを取り付け、M8　SW付ナットで固定します。

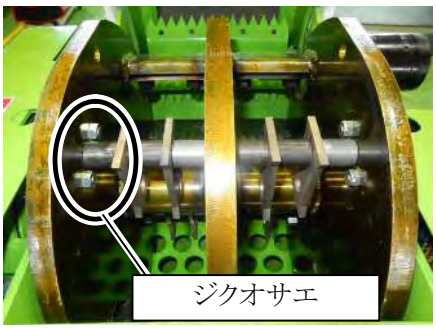
注　　意

SW付ナットを固定する際は、ロータロックピンを差し、ロータが回らないようにして作業を行って下さい。

４．シュレッダーナイフジクオサエを取り付けた側の反対側からシュレッダーナイフ軸を挿入し、下図の様に交互に取り付けます。



５．上図左側も３と同様にし、シュレッダーナイフジクオサエを２と反対側に取り付けます。



６．ロータを180°回した反対側も、同様にシュレッダーナイフを取り付けます。

７．ロータカバーをしめ、２の固定ネジを締めます。

８．排出ダクトを元に戻し、固定ハンドルを締めて下さい。

上手に運転するには（２）

スクリーンの取り付け・取り外し

⚠ 注　　意

■ 粉砕作業は必ずスクリーンを取り付けて行って下さい。

危　険

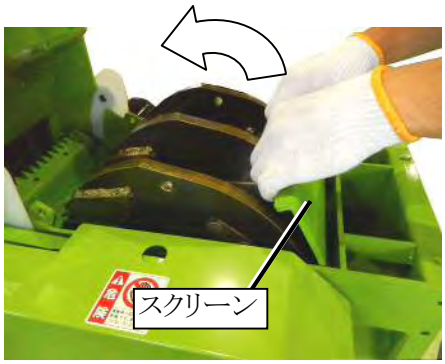
※スクリーンの取り付け･取り外しを行う際は、必ずロータが停止していることを確認してから、作業を行って下さい。

スクリーンの取り外し

１．排出ダクトの固定ハンドルをゆるめ、排出ダクトを取り外して下さい。（Ｐ２６『排出ダクト』参照）

２．ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けて下さい。

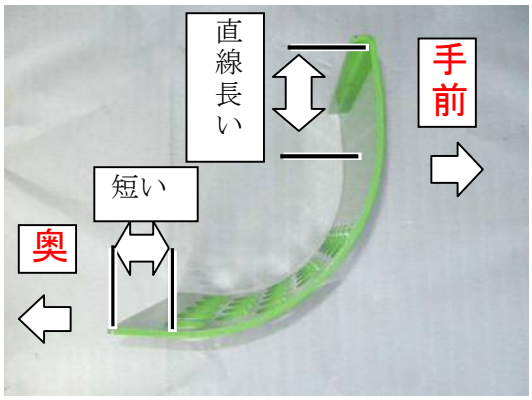
２．スクリーンを引出して、取り外してください。



スクリーンの取り付け

取り外しの逆順で取り付けて下さい。

※ 取り付ける際は、スクリーンの向きに注意して取り付けて下さい。（逆に付けると、取り付けできません）



注　　意

取り付ける場合は、スクリーンの先端（奥）の面とその面が当たるロータハウジングの面は付着物を除去して下さい。スクリーンの手前の上面が、ロータハウジングよりはみ出し、ロータカバーがきれいに閉じれません。

上手に運転するには（２）

粉砕作業時の注意点

注　　意
１．エンジン始動中及びロータ回転中は正面ホッパのチップガードより奥及び排出口に絶対に手をいれないでください。 ２．短材を投入する際は、棒や角材で押し込むようにして下さい。 送りローラの手前で粉砕物が滞留し取出す場合、また粉砕物のまきつきやつまりの除去をする場合は必ずエンジンを停止させ、送りローラ及びロータの回転が停止した事を確認してから処理して下さい。 ３．粉砕する材料に金属類（釘・針金・金属片など）や異物が混入していないことを確認のうえ、作業を行って下さい。 ４．粉砕作業は、 (1) シフトレバーはN（ニュートラル）位置、走行クラッチレバーは「下」位置で行って下さい。 (2) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業を行って下さい。 (3) １Ａヒューズが切れると、自動正送り制御が働かず、エンジンストップに至る場合があります。 ５．住宅地での作業では、周りへの騒音に注意を払って下さい。 ６．作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意して下さい。 ７．危険防止のために（Ｐ1～Ｐ4）、運転を始める前に（Ｐ13～14）を再読して下さい。 ８．粉砕作業は、必ずスクリーンを取り付けて行って下さい。

上手に運転するには（２）

1. つまり防止の方法

つまりの発生を防止するために、下記の事項に十分注意の上、作業を行って下さい。

(1) ロータが完全に回り出してから粉砕作業を開始して下さい。

(2) 作業時は、半クラッチやクラッチを切った状態での使用を避け、必ずロータクラッチレバーを「入」位置にして接続した状態で使用して下さい。

(3) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業して下さい。**エンジンの回転数が低いと送りローラが正転しません。**

(4) ロータベルトの張り点検を行い動力が十分伝わる状態で使用して下さい。（エンジン及びロータが完全に止まっていることを確認の上、点検して下さい。）

(5) 粉砕材料（特に枝、葉）が、雨や水に濡れている場合は、粉砕作業はできません。

(6) 送り速度調整ダイヤルが付いている場合（ＧＨＢまたはオプション取付のとき）は作業条件に合わせたダイヤル調整を行ってください。

重　要

葉っぱや草、幹が細く軟らかい材料ばかりを続けて粉砕していると中で詰まったり、送りローラの手前で詰まって入っていかない事があります。
なるべく幹が太い材料や堅い材料を混ぜて粉砕を行うとスムーズに粉砕できます。

重　要

詰まったり引っ掛かったりした際は必ずエンジンを停止させ、回転が止まった事を確認してから除去作業を行うか、棒状の枝等で押し込んだり引き出すようにし、決してエンジン始動中に手を入れて取り除かないようにして下さい。

2. 噛みこみ解除のしかた

材料が送りローラに噛みこんだままエンジンが停止した場合
※ロータを回るようにして、エンジン稼動させ材料を取り出して下さい。

(1) エンンジンキースイッチを「OFF」にして下さい。

(2) ロータクラッチを「切」にして下さい。

(3) 噛み込んだロータを解除して下さい。

(4) ロータが手で軽く回ることを確認して下さい。

(5) 送りスイッチを中立位置にして下さい。

(6) エンジンを始動して下さい。

(7) スロットルレバーを「高」位置にして、エンジン回転をフルスロットルにします。

(8) ロータクラッチを「入」にして下さい。

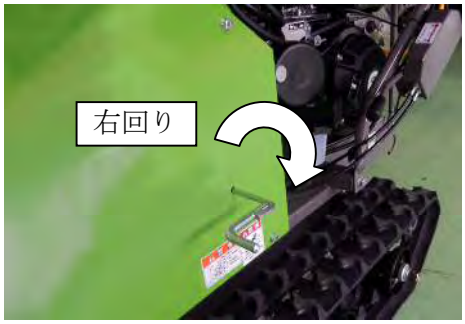
(9) 送りスイッチを逆転位置にして下さい。

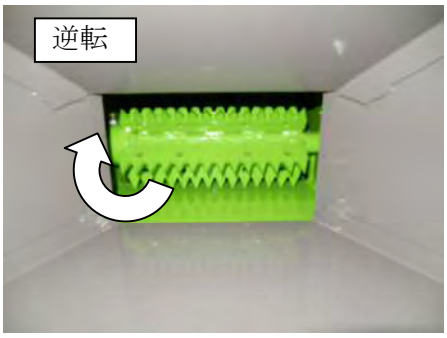
(10) 噛み込んだ材料がホッパ手前に戻ってきますので取り除いて下さい。

上手に運転するには（２）

※ ロータが回らずエンジン稼動で取り除けない場合、ある程度除去してもロータが手で回らない場合は、次の方法で送りローラを逆転させて投入物を取り除いて下さい。

(1) ロータクラッチスイッチを「切」にして下さい。
(2) 送りスイッチを逆転位置にして下さい。
(3) エンジンキーを『ＯＮ』位置にして下さい。
(4) 本機に付属のハンドル(ﾛｰﾀﾛｯｸﾋﾟﾝ)を下記のように差込み時計周りに早回しして下さい。送りローラが逆転をし噛みこみが解除されます。





上手に運転するには（２）

3. ひっかかりの除去

(1) ひっかかりを除去した際に、送りローラ部が所定の位置まで下ります。
フィードボックス・送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。

(2) 材料等がひっかかって、送りローラ取付部がきちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除して下さい。

(3) 停止中・運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。

(4) 整備を行う時は、エンジンを停止して、送りローラ及びロータの回転が停止した事を確認し、エンジンキーを取外ししてから、送りローラにはさまれないように注意して作業をして下さい。

(5) エンジン回転中及びロータ回転中に排出口をのぞいたり手や足を入れないで下さい。

定期の点検・整備をするには

調子よく作業するために、定期的に行いましょう

注　　意

安全に運転するため、燃料への引火防止のため、点検・整備を行うにあたり、次のことを厳守して下さい。

1．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置にし、シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にしてから行って下さい。
2．エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油、給油は絶対行わないで下さい。
3．燃料の取扱い時やエンジンの整備時はくわえ煙草・裸照明は絶対しないで下さい。
4．操作系の点検は、一部走行試験が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行って下さい。その際整備が必要な場合は１．項目内容を厳守して下さい。
5．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい。

ア　ワ　メ　ー　タ

本機には、アワメータが付いています。
点検･整備の時間の参考にして下さい。

アワメータ

※使用状況によっては交換時間が早まることがあります。早めの点検・整備をおすすめします。

オイル交換

オイル交換の際には次のことに注意して行って下さい。

1．古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく故障の原因となります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油して下さい。

2．オイルの抜き取りはオイルが暖かいうちに行うと容易に抜くことができます。

注　意
作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業して下さい。
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意して下さい。

3．オイルは消費します。 運転日毎に規定最大量まで補給して下さい。

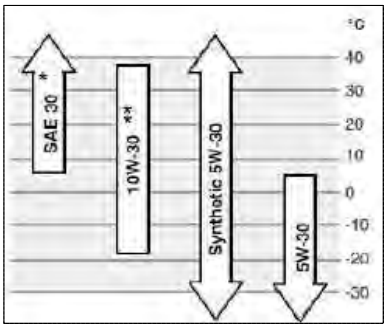
4．エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルをまねきます。オイルの品質はＳＦ級以上の良質のもので外気温度に応じて、純正オイル、または、自動車用エンジンオイルを使用して下さい。

5．マルチグレードを使用する場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますので注意して下さい。

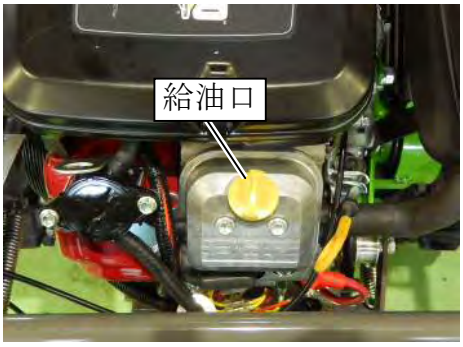
定期の点検・整備をするには

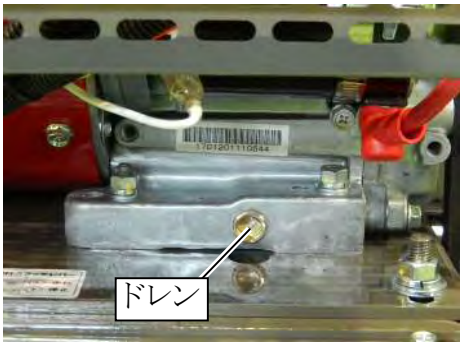
エンジン			
ｸﾞﾚｰﾄﾞ・粘度	**≪ｵｲﾙｸﾞﾚｰﾄﾞ≫** SF, SG, SH, SJ及びこれ以上の高品質なｵｲﾙ **≪ｵｲﾙ粘度≫** 外気温4℃以上でSAE30番を推奨。 ｴﾝｼﾞﾝ始動時の外気温に合わせて正しい粘度のｵｲﾙを選定して下さい。 下表を参照して外気温に合わせてオイルを選択して下さい。		
交換時間	**初回** ５時間 **2回以降** ５０時間毎	規定量	１ﾘｯﾄﾙ

※『エンジン』の項及びエンジン取扱説明書参照



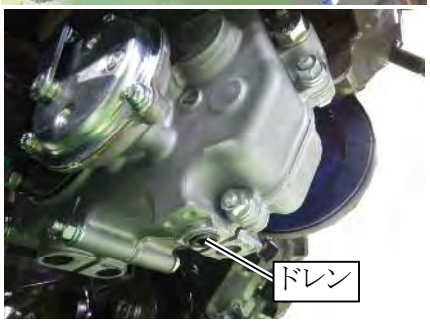
エンジン



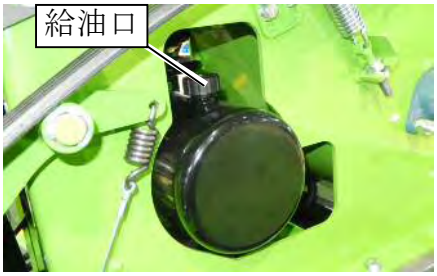


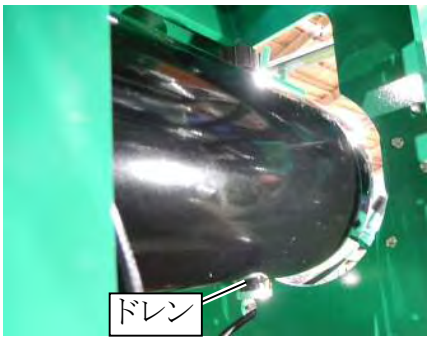
	オイル	規定量	交換時間
走行ﾐｯｼｮﾝ	ギヤオイル＃80	0.7ﾘｯﾄﾙ	初回50時間目 ２回以降200時間毎(走行)
パワーパック	ISO VG46相当粘度	3ﾘｯﾄﾙ	300時間毎

走行ミッション



パワーパック





定期の点検・整備をするには

パワーパック

作動油の補給

1．ISOVG４６相当粘度の油圧作動油を給油して下さい。

2．適正量は油面が注油口から下、約５０ｍｍの位置です。

作動油の交換

1．作動油の交換はドレンプラグを外し作動油を全量交換して下さい。

注　意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業して下さい。

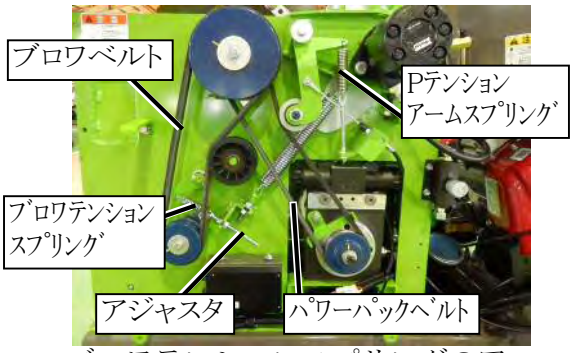
(1) パワーパック裏側のドレンプラグを外して作動油を抜き取ります。
(2) ドレンプラグは排油後古いシールテープを取ってきれいに洗浄し、新しいシールテープを巻いて締めて下さい。

2．必ず新しいオイルを使用し、泥およびゴミがタンク内に入らないように給油して下さい。

3．パワーパックへの直接の散水洗浄は避け圧縮空気やブラシ・布などで泥土・ほこり・草屑等を落として下さい。

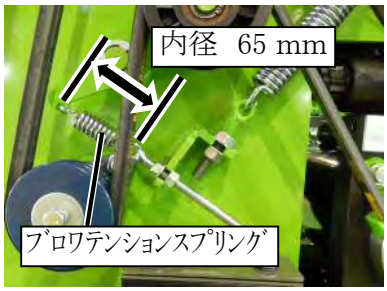
4．気温が０℃以下の場合は5分程度暖気運転を行って下さい。

パワーパックのベルトの交換及び張り調整



1．ブロワテンションスプリングのアジャスタを緩めて、ブロワベルトを取り外してください。
2．Pテンションアームスプリングのアジャスタを緩めて、パワーパックベルトを取り外してください。

3．新しいベルトを取り付けて下さい。
4．アジャスタを取付け、Pテンションアームスプリングの長さが写真のようになるまで張ってください。
5．ブロワベルトを取り付け、ブロワテンションスプリングの長さが写真のようになるまで張って下さい。



6．パワーパックベルトを取り付け、Pテンションアームスプリングの長さが写真のようになるまで張って下さい。

※ 張った時のスプリングの長さはあくまで参考値です。

定期の点検・整備をするには

油圧ホース

機械を使用する前に、油圧ホースとパイプのラインをチェックし、切れ・接続部のゆるみ・ねじれ・磨耗の有無を調べて下さい。

危　　険

1．エンジン回転中はホース・パイプ・口金具・継手に手をかざして漏れのチェックや点検をしないで下さい。

2．高圧で吹き出すオイルは皮膚を突き破るのに十分な勢いを持っていて危険です。

3．ホースやパイプは他のフレーム部分に接触させないで下さい。接触させると摩擦により磨耗します。

4．切れたり、磨耗したホースやパイプは機械の使用前に必ず交換して下さい。

5．接続部のゆるみやホース交換・整備でねじれたホースは機械の運転前に必ず直して下さい。

6．ねじれを直すには、ホース金具の固定部分を1本のスパナで押え、もう1本のスパナでホースナットをゆるめます。次にホースのねじれを直しホース口金具側のスパナは固定したまま、ホースナット側のスパナを回して締付けて下さい。

7．アセンブリホース、他継手器具は次表の推奨締付トルクを参照の上、適正な締付けを行って下さい。アセンブリホース接続金具交差は±１０％程度です。このトルクはネジ部に油付着が無い場合です。

金具の締付トルク	１／４	２４（N･m）

●交差は、±10%程度です。
●このトルクはネジ部に油付着がない場合です。

走行クラッチ

警　　告

走行クラッチの入・切があまいと本機の走行や停止の作動に支障をきたす恐れがあり大変危険です。
走行や停止の作動に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

走行クラッチの調整

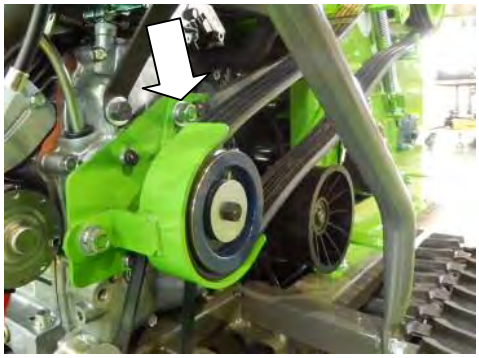
1．走行クラッチレバーを「上」位置にして下さい。（走行クラッチが入ります）

2．サイドカバーＥ１、サイドカバーＥ２を固定しているＭ８のボルト（５本）を緩め、外します。

3．走行ベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。調整後ロックして下さい。

4．走行クラッチレバーを「下」位置（走行クラッチが切れます）にしてエンジン始動の要領でエンジンを始動し、走行ベルトクラッチが確実に切れることを確認して下さい。

5．走行ベルトクラッチが切れない場合は、ベルトホルダの調整を行って下さい。



6．走行クラッチベルトの張りがワイヤアジャスタで張れなくなった場合は、新品のベルトと交換して下さい。

定期の点検・整備をするには

駐車ブレーキ

警　告　1

ブレーキの効きがあまいと非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

１．駐車ブレーキワイヤアジャスタ調整

(1) 走行クラッチレバーを「下」位置（駐車ブレーキが掛かります）にして、駐車ブレーキワイヤが張っているか確認します。（先端のスプリングがわずかに伸びます）

(2) 張りが弱い場合は、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。

(3) 走行クラッチレバーを「入」位置にし、駐車ブレーキワイヤがたるんでいることを確認して下さい。張っている場合は、駐車ブレーキワイヤアジャスタの張りすぎです。再調整します。

２．駐車ブレーキシューの点検と交換

駐車ブレーキの点検は3ケ月毎に行って下さい。

(1) シューの使用限度厚みは **１．５mm** ですが、２mm以下の場合は新品と交換して下さい。新品との交換が済むまで機械の使用を控えて下さい。

(2) 駐車ブレーキの効きが甘い場合やシューが焼けている場合は、シューの厚みが使用限度内であっても、新品と交換して下さい。その他、ドラムの磨耗、変形、大きなキズ、ひび割れスプリングの破損やへたり、カムレバー（走行ミッションの駐車ブレーキアーム）のカム磨耗などが有る場合は新品と交換して下さい。

(3) シュー交換後に、**駐車ブレーキレバー引代調整**を行って下さい。

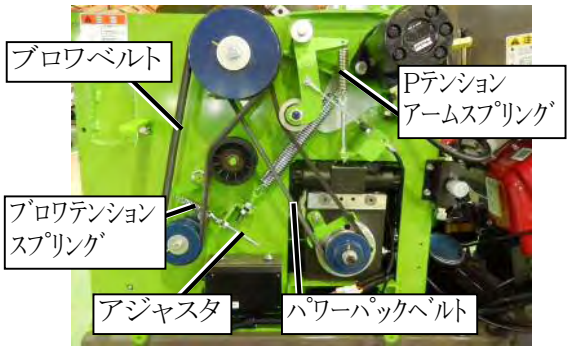
(4) ブレーキが引きずる場合、(3)と同じ要領でワイヤを緩む方向に動かします。

(5) 走行ミッション側だけのアジャスト量だけで不足の時はレバー側のワイヤアジャスタも動かして調整して下さい。
調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

(6) 駐車ブレーキワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、駐車ブレーキワイヤを交換し駐車ブレーキレバーの引代調整を行って下さい。
　また、シューの磨耗が大きいと考えられますので、走行ミッションのシューの点検を行って下さい。

定期の点検・整備をするには

ブロワベルト



1. ブロワベルトの初期のびの張り調整

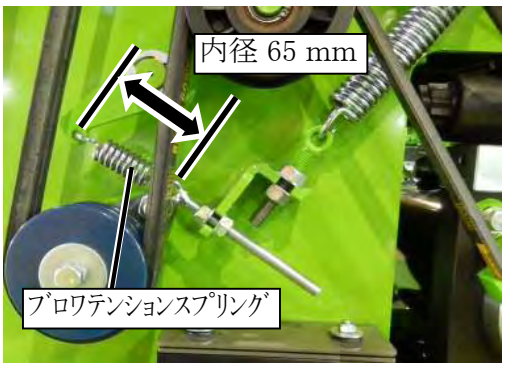
10時間程度機械を使用後にブロワベルトの張りの調整をしてください。
張りの調整方法は **2. ブロワベルトの交換及び張り調整**の要領で行ってください。

2.ブロワベルトの交換及び張り調整

1. ブロワテンションスプリングのアジャスタを緩めて、ブロワベルトを取り外してください。

2. 新しいベルトを取り付けて下さい。

3. ブロワベルトを取り付け、ブロワテンションスプリングの長さが写真のようになるまで張って下さい。



※ 張った時のスプリングの長さはあくまで参考値です。

サイドクラッチ

サイドクラッチワイヤが伸びて、効きがあまくなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチワイヤのアジャスタを下記の要領で調整して下さい。

サイドクラッチの調整

(1) サイドクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めます。

(2) エンジンをエンジン始動の要領で始動し、ワイヤアジャスタを少し伸ばします。サイドクラッチレバーを「上」位置にし、走行させ左右のサイドクラッチの「切」「入」を確認しながら、ワイヤアジャスタを少しずつ調整して下さい。

(3) サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合は、アジャスタをロッドが伸びる方向へサイドクラッチの切れが悪い場合は、アジャスタをロッドが縮む方向へ回して下さい。

(4) 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

定期の点検・整備をするには

ロータクラッチ

ロータベルトが伸びるとベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行って下さい。

１．ロータクラッチワイヤの張り調整

(1) ロータクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めて下さい。

(2) ロータベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを動かし、ワイヤが伸びる方向へ調整し、ロータクラッチレバー「入」位置で、テンションプーリの反対側のベルト中央を指で軽く押さえたときのたわみ量が１０～１５㎜になり、「切」位置で確実にベルトが切れるようにして下さい。

２．ロータベルトの張り直し

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、次の手順でベルトを張り直して下さい。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

(3) エンジンベースを固定しているＭ１０の固定ナット（４ヶ）を緩めて下さい。

(4) エンジンをベルトが張る方向へ動かし、ロータベルトをエンジン側に軽く引いてエンジンプーリとベルトのすきまが３～６㎜になるよう調整し、エンジンの固定ナットを締め付けて下さい。

(5) **１．ロータクラッチワイヤの張り調整の要領**でロータクラッチワイヤの張り調整を行い、ベルト支エの位置調整を行ってロータクラッチレバー「切」位置で確実にベルトがきれるようにして下さい。

３．ロータベルトの交換

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合や、ベルトが摩耗やほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換して下さい。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) サイドカバーＲ、サイドカバーＥ１、サイドカバーＥ２外して下さい。

(3) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

(4) エンジンを固定しているＭ１０の固定ナット（４ヶ）を緩めて下さい。

(5) Ｒベルトホルダを固定しているＭ１０の固定ボルトを外し、Ｒベルトホルダを外して下さい。

(6) 古いロータベルトをエンジンプーリ側から外し、新しいロータベルトをロータプーリ側から取り付けます。

(7) **２．ロータベルトの張り直し**の要領でロータベルトの張り調整を行って下さい。

４．ロータクラッチの「切」の確認

調整が終わったらロータクラッチレバーを「切」位置にしたとき、ベルトのつき回りがないことを確認して下さい。

(1) サイドカバーＲは取り付けず、ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) エンジンを始動させ（Ｐ１５『エンジン始動のしかた』参照）スロットルレバーを「高」位置にしてエンジンをフルスロットルにします。

(3) ロータクラッチレバーを除々に「入」位置にして下さい。

(4) ロータクラッチレバーを、ゆっくり操作し「入」位置、「切」位置を繰り返し、確実に、ロータクラッチが切れることを確認して下さい。

(5) ロータクラッチが切れなかった場合は、エンジンを停止し、燃料コックを「閉」位置にして、ロータベルトのワイヤアジャスタでベルトの張り具合と各ベルト支エの位置を再調整して、確認作業を行って下さい。

(6) 調整が終わったら、サイドカバーＲを元どおりに装着して下さい。

注　　意

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向でベルトの印刷文字の頭がくるようにして下さい。逆にすると、寿命が短くなります。

定期の点検・整備をするには

クローラ

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともにスプロケットとのなじみによる緩みが生じてきますので、常に点検・整備を行い正常な状態を保つとともに、異常が確認された場合、次の要領でクローラの張りを調整して下さい。

１． 車体を水平な場所に置きます。

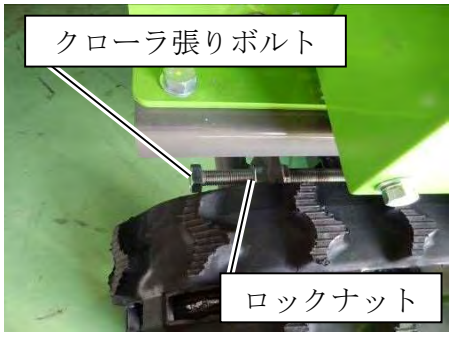
２． ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

注　意

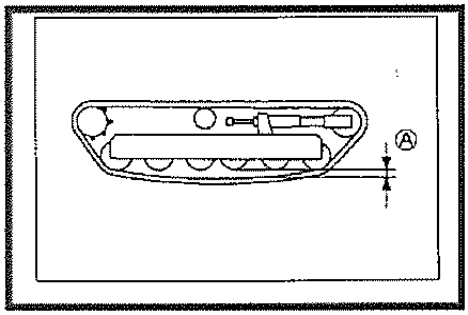
ジャッキ等が外れないように十分注意してください。

３． クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。

クローラ張りボルト



４． クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図中Ａ）が10～15mm程度（転輪が水平な状態で）になるよう調整します。



５． 調整後、ロックナットを締め付けます。

注 意 1

クローラは最初の１０～２０時間で必ず張りの調整をして下さい。

注 意 2

左右のクローラの張りが異なると、直進性が悪くなりますので左右同じように張って下さい。

注 意 3

クローラが緩んだ状態で使用しますとクローラ外れやスプロケットのかみ合い不良を起こし、クローラが張り過ぎた状態で使用しますと駆動各部の転がり摩擦抵抗の増大および抵抗の増大を招き、クローラの寿命を著しく縮めたり、走行力の低下を引き起こしますので定期的に点検し、調整を行って下さい。

定期の点検・整備をするには

バッテリ

注　　意

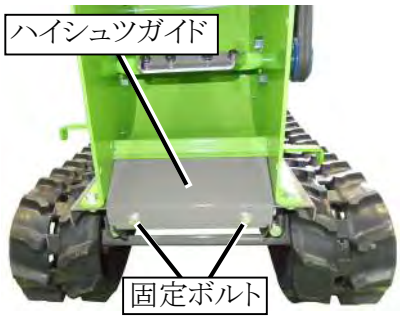
1．バッテリの電解液が手・皮膚・衣服についたときは、速やかに多量の水で洗い流して下さい。

2．バッテリの電解液が目に入ったときは、直ちに多量の水で約１５分間洗眼したのち、速やかに病院で治療を受けて下さい。

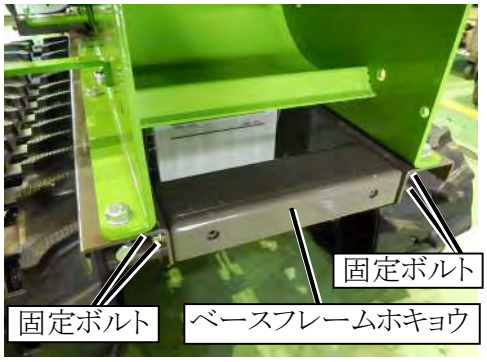
3．バッテリメーカーの取扱い説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行って下さい。

1．ブロワカバーにあるブロワカバーピンを引き出して開けて下さい。

2．固定ボルト２本を取り外し、ハイシュツガイドを取り外しして下さい。



3．固定ボルト４本を取り外し、ベースフレームホキョウを取り外しして下さい。



4．バッテリの保守・点検を行って下さい。

1.　バッテリの保守

バッテリの保守作業はエンジンを停止しエンジンキーを外してから行って下さい。

(1) バッテリの仕様は、**34A19RT**です。

(2) バッテリを取付けるとき、または取り外すときは、プラスおよびマイナスの端子が、機械の金属のパーツと同時に接触することがないように注意して下さい。
　同時接触があると、大きな損傷をひき起こします。バッテリの保守の作業をするときはいつでも、“アース”ケーブル（－）を最後に接続し、取り外すときは最初に取り外して下さい。

(3) バッテリの接続部は常に、きれいに保ち、かつ締めておいて下さい。ケーブルが緩んでいるとバッテリの不具合を起こす事があります。端子のカバーは、正しい位置に付けて下さい。

(4) 清掃は水で湿らした布を使用し、乾いた布等は使用しないでください。

(5) スチール・ウールを使って、ターミナル接続部の表面を磨いて下さい。

(6) ターミナルとケーブルの端に、腐食を防ぐため、シリコン誘電グリースをうすく塗って下さい。

(7) バッテリ・ターミナルにケーブルをしっかり締めて下さい。

(8) バッテリの電解液量が不足している場合はＵＰＰＥＲラインまで精製水を補給して下さい。

２．バッテリの補充電

バッテリの補充電は、バッテリの全項を参照、またバッテリメーカーの取扱説明書を参照して行って下さい。

(1) 充電の前にバッテリを機械から外して下さい。

(2) 充電は風通しのよいところで行い、火気類を近づけないで下さい。

(3) チャージャが「オフ」になっているかを確認して下さい。

(4) チャージャ・リードをバッテリへつないで下さい。チャージャからのプラスのコネクタを、プラスのバッテリ・ターミナルへつないで下さい。チャージャのマイナスコネクタを、マイナスのバッテリ・ターミナルへつないで下さい。

危　　険
ケガを防ぐため、チャージャを「オン」にしたときは、バッテリから十分距離をおいて離れること。 バッテリが損傷していたり、内部でショートを起こしたバッテリは、爆発することがあります。

(5) 各セルの液口栓を外して下さい。

(6) 充電は下記のいずれかの方法で行います。チャージャについてのメーカーの指示図に従って下さい。

＊ スタータが回らないような場合は、急速充電はしないで下さい。
＊ 完全充電時の電解液比重は1.280／20° ｃです。

普通充電	急速充電
14時間@2amps 8時間@3.5amps	2. 5時間@14amps 1. 5時間@23amps 1 時間@35amps
40Ｃ以下で充電	50Ｃ以下で充電

(7) バッテリ充電のときに、ひどくガスが出たり、電解液が吹き出したり、バッテリのケースが熱く感じられたらバッテリの損傷を防ぐためアンペアを減ずるか、または補充電を一時的にやめて下さい。

(8) バッテリからチャージャ・リードを取外す前に、必ずチャージャを「オフ」にして下さい。

３．バッテリの交換

バッテリが充電直後もエンジンスタータモータの回転音が、いつもより低くて弱い場合は、バッテリ交換の時期です。新しいバッテリと交換して下さい。バッテリ交換は、バッテリの保守の手順で行って下さい。

注　意

バッテリ交換は必ずエンジンを止めて作業して下さい。

定期の点検・整備をするには

エンジン

エンジンメーカの取扱説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行って下さい。

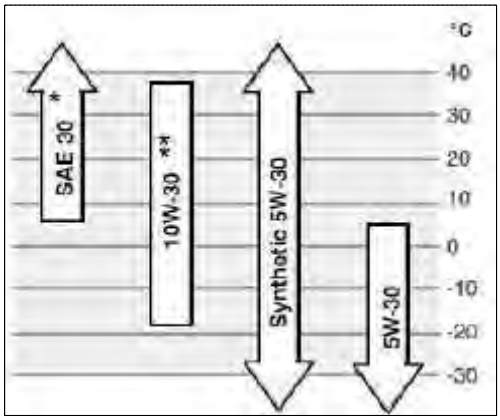
1. エンジンオイルの交換

＊「オイル交換」の項参照

≪エンジンオイルの交換≫
初　　回　　５時間運転後に交換
２回目以降　５０時間運転毎に交換

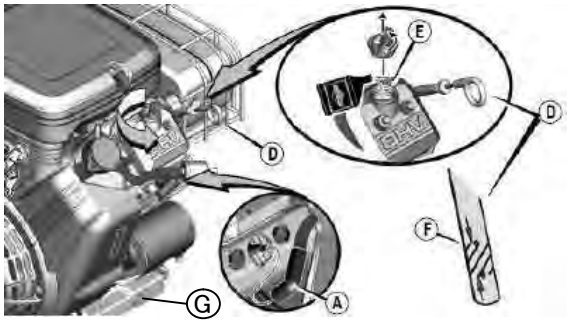
≪推奨オイル≫
ＳＦ，ＳＧ，ＳＨ，ＳＪ及びこれ以上の高品質なオイルを使用して下さい。
エンジン始動時の外気温に合わせて正しい粘度のオイルを選定して下さい。
下表を参照して外気温に合わせてオイルを選択して下さい。

注　意
熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意して下さい。



※　外気温4℃以下でSAE30のオイルを使用すると始動不良となります。
※※ 外気温27℃以上で10W-30を使用した場合、オイル消費が多くなります。
オイル点検はこまめに行って下さい。

●エンジンオイルの抜き取り



(1) エンジンを停止し暖かいうちにスパークプラグワイヤ（A）を外してスパークプラグから離します。

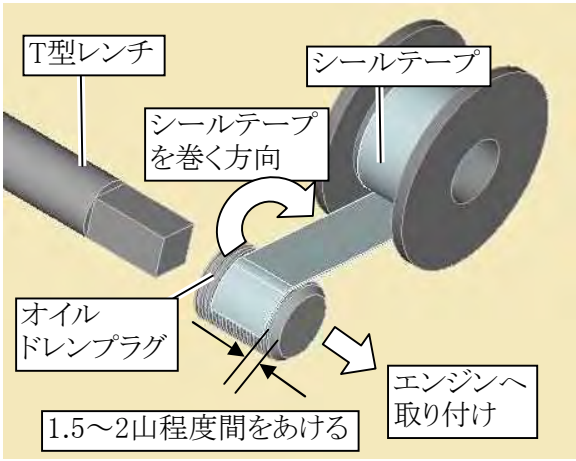
(2) オイルドレンプラグ（G）を取り外しして、オイルを受け皿に流します。オイルゲージ（D）を外しておくと早く抜けます。

(3) オイルドレンプラグ（G）に巻かれているシールテープを取り除き、新たにシールテープを巻きます。

※時計周りに２周半～３周程度巻いて下さい。（下図参照）

※シールテープを巻かずに取り付けしたり、巻き方不良の場合、油漏れの原因となります。

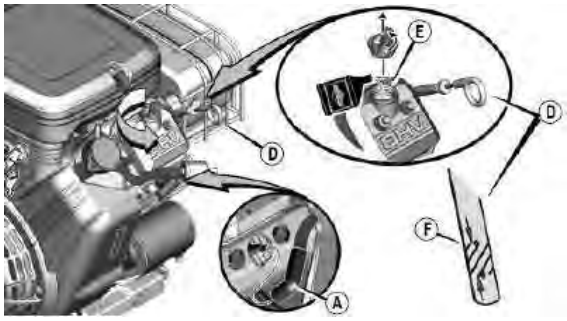
≪シールテープの巻き方≫



(4) オイルを抜き終わったら、オイルドレンプラグを取り付けます。

定期の点検・整備をするには

●エンジンオイルの補充



注　意

- エンジンを水平とします。
- オイル注入口付近の汚れをふき取ります。
- オイル用量は**1.0L**入れて下さい。

(1) オイルゲージ(D)を外し、きれいな布でふき取ります。

(2) エンジンオイル(E)をゆっくりと入れます。入れすぎない事。オイルを注入後、約1分待ちオイルレベルを確認します。

(3) オイルゲージを取り付けます。

(4) オイルゲージを外してオイルレベルを確認します。オイルゲージ上の矢印の位置にあることを確認します。

(5) オイルゲージを取り付け、締め付けます。

２．エンジンオイルフィルタの交換

エンジンオイルフィルタ
（品番：842921）

初回のオイル交換ではオイルフィルタの交換は推奨しておりません。2回目以降のオイル交換の際に毎回同時交換をして下さい。
使用時間が年50時間に満たない場合は年に1度交換をして下さい。

(1) オイルを抜き取ります。
※「エンジンオイルの抜き取り」の項参照

(2) オイルフィルタ(C)を外して下さい。

(3) 新しいオイルフィルタを取り付ける前に、ガスケット部にきれいなオイルを塗布して下さい。

(4) オイルフィルタをガスケットがアダプタに当たるまで手で締め、さらに工具で1/2から3/4回転回します。

(5) オイルを注入します。
※「エンジンオイルの補充」の項参照

(6) エンジンを停止してオイルレベルを確認します。オイルゲージの所定の位置(『エンジンオイルの補充』図F)にあることを確認し、不足していれば補充します。

３．点火プラグの清掃と調整と交換

(1) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落として下さい。

(2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて0．6～0．7㎜に調整して下さい。

(3) 点火プラグの掃除と電極間隙を調整し、それでもエンジンがかからない場合は新しい点火プラグと交換して下さい。

品番： 491055S
品名： ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝ XC92YC

(4) 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付けプラグキャップを確実に差し込んで下さい。

４．燃料フィルタの交換

燃料フィルタの交換は４００時間もしくは1年毎の、どちらか早い方の時間で交換をして下さい。

危　険 **火気厳禁**

(1) クランプ（C）のタブ（B）をプライヤでつまみ、フィルタから離す方向にずらします。燃料ホース（D）をファイルタから外します。

(2) 燃料ホースにクラックや漏れが無いかを確認して、必要であれば交換してください。

(3) 燃料フィルタ（A）をオリジナルの部品と同じ部品に交換します。

(4) 燃料ホースとフィルタのクランプを図のように取り付けます。

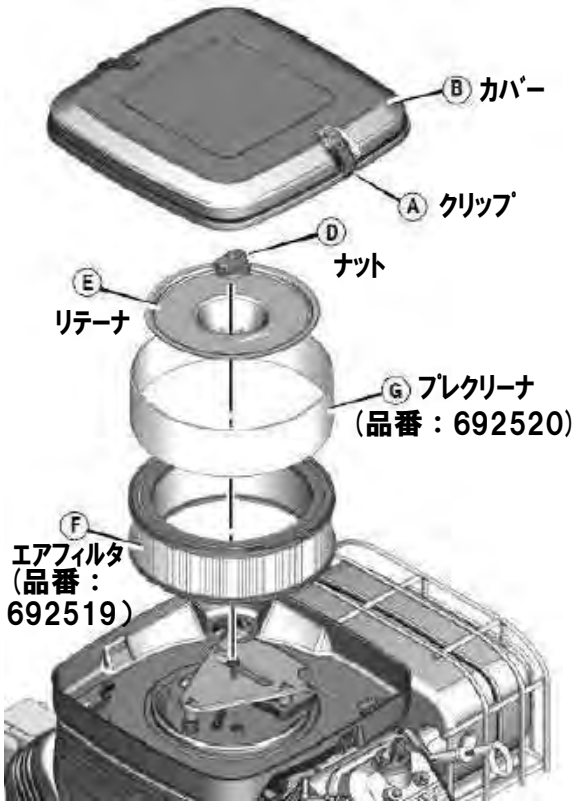
5．エアクリーナの清掃

空気中の塵挨を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。
いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けて下さい。

エアクリーナペーパーエレメント及びプレクリーナーは200時間ごとに交換をお願いいたします。

危　険　　**火 気 厳 禁**

(1) エアクリーナエレメントの汚れがひどいときは、以下の要領で清掃して下さい。



① クリップ（A)を外しカバー（B)を外します。

② ナット（D）を外し、リテーナ（E）を外します。

③ エアフィルタ（F）を外します。

④ プレクリーナ（G）を、エアフィルタから外します。

⑤ ゴミを取り除き、エアフィルタは圧縮空気を吹き付けるか、平らな面で軽く叩き汚れを落とします。汚れが著しい場合は新品と交換をして下さい。

⑥ プレクリーナは線浄水で洗い、乾燥させます。オイルは含ませないで下さい。

⑦ 乾燥したプレクリーナとエアフィルタをエンジンベースに取り付けます。

⑧ リテーナとナットを取り付けます。

⑨ カバーを取り付けます。

定期の点検・整備をするには

６．燃料パイプの交換

危　険 **火気厳禁**

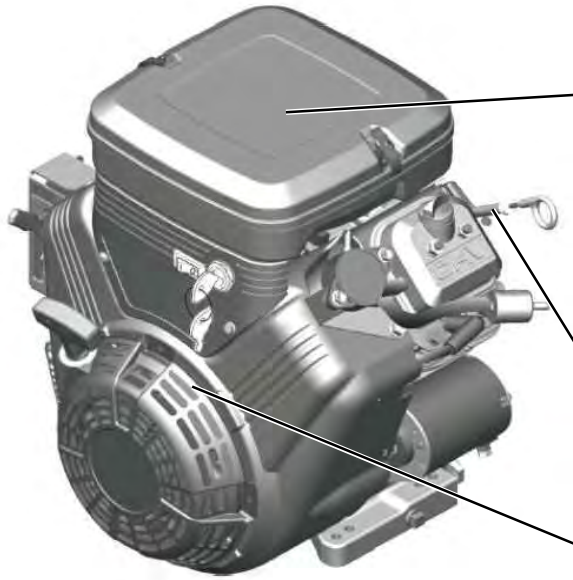
(1) 使用頻度に関わらず、燃料パイプは**2年毎**で交換して下さい。燃料漏れは引火する危険があります。

(2) 点検時、パイプにキズやヒビ等の損傷、燃料漏れ等のあるものは即交換して下さい。

注　意
点検・整備は、必ずエンジンを停止、エンジンキーを外してから行って下さい。

定期の点検・整備をするには

7． 日常点検
ご使用になる前に、次の点検を行って下さい。



エアクリーナエレメントの汚れ清掃

周　囲　の　安　全

異　常　振　動　・　異　常　音

燃　料　、　オ　イ　ル　等　の　漏　れ

エ　ン　ジ　ン　オ　イ　ル　の　量　と　汚　れ

各　部　ボ　ル　ト　ゆ　る　み　、　破　損

8． 定期点検
エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行して下さい。

運転時間	8時間 （毎日）	50時間 （毎週）	100時間	250時間	400時間
各部の清掃及び締付点検	●（毎日）				
エンジンオイルの点検・清掃	●（毎日規定最大量まで補給する）				
エンジンオイルの交換	（初回５時間）	（2回目以降 ５０時間毎）			
マフラ及びコントロール周辺部の点検	●				
点火プラグの清掃		●			
点火プラグの交換			●（適宜交換）		
プレクリーナの清掃		◎			
エアフィルタの交換			◎（200時間毎または、毎月）		
プレクリーナ清掃			◎		
オイルフィルタの交換			◎		
点火プラグ隙間清掃と調整			●		
マフラ及びスパークアレスタの点検			●		
バルブクリアランスの点検 及び必要に応じて調整				●	
燃料フィルタの交換					●
冷却システムの清掃					◎
オイルクーラフィンの清掃					◎

◎埃がひどい状況ではより頻繁に清掃してください。

定期の点検・整備をするには

燃料タンク

危 険　　**火 気 厳 禁**

警　　告

1．燃料の補給はエンジンを停止させ、少なくとも2分間以上冷却した後に行って下さい。

2．屋外か換気のよいところで補給し、規定量以上入れないで下さい。

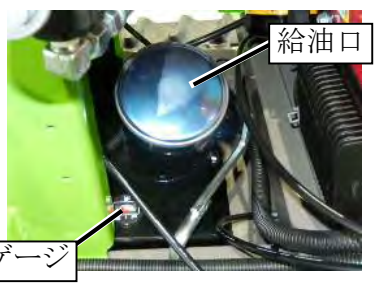
3．ガソリンをスパークや炎、パイロットレンプ、熱やその他の着火源から離して下さい。

4．燃料ホース、タンク、キャップ、並びに関連部品にひび割れや汚れがないか、頻繁に点検して下さい。必要うであれば交換して下さい。

5．燃料がこぼれたら、きれいにふき取って下さい。

燃料は自動車無鉛ガソリンを使用して下さい。満タン時で**約15. 0リットル**給油できます。
燃料が汚れていたり、古かったり、品質の悪いものを使用しますとエンジンの性能低下や故障に繋がる原因となります。
いつも良質できれいな燃料を使用するように心がけて下さい。

燃料タンク



ドレンプラグ

※上写真矢印位置

注　意 1

燃料に水やゴミが混ざってしまうと、出力不足になるばかりか燃料系統の各部が故障する恐れがあります。
ドレンプラグを開いて、燃料タンクの底にたまった水やゴミを排出して下さい。
少なくとも1～2リットルは抜いて水やゴミが排出されたことを確認して下さい。

注　意 2

傾斜地走行前は、燃料の残量に注意して下さい。常に半分以上残量があるようにして下さい。
燃料タンクが傾き、タンクの吸い口が露出すると燃料切れの状態になり、エンジンが停止します。

注　意 3

機械を３０日以上保管する場合には、燃料が劣化します。劣化した燃料は燃料システムや重要なキャブレタ部品中の酸やゴム質の沈着物の原因となる可能性があります。
これを防ぐためにタンク内の燃料に燃料劣化防止剤を添加するか燃料を燃料タンクから抜いてください。『長期保管』のページを参考にして処置をしてください。

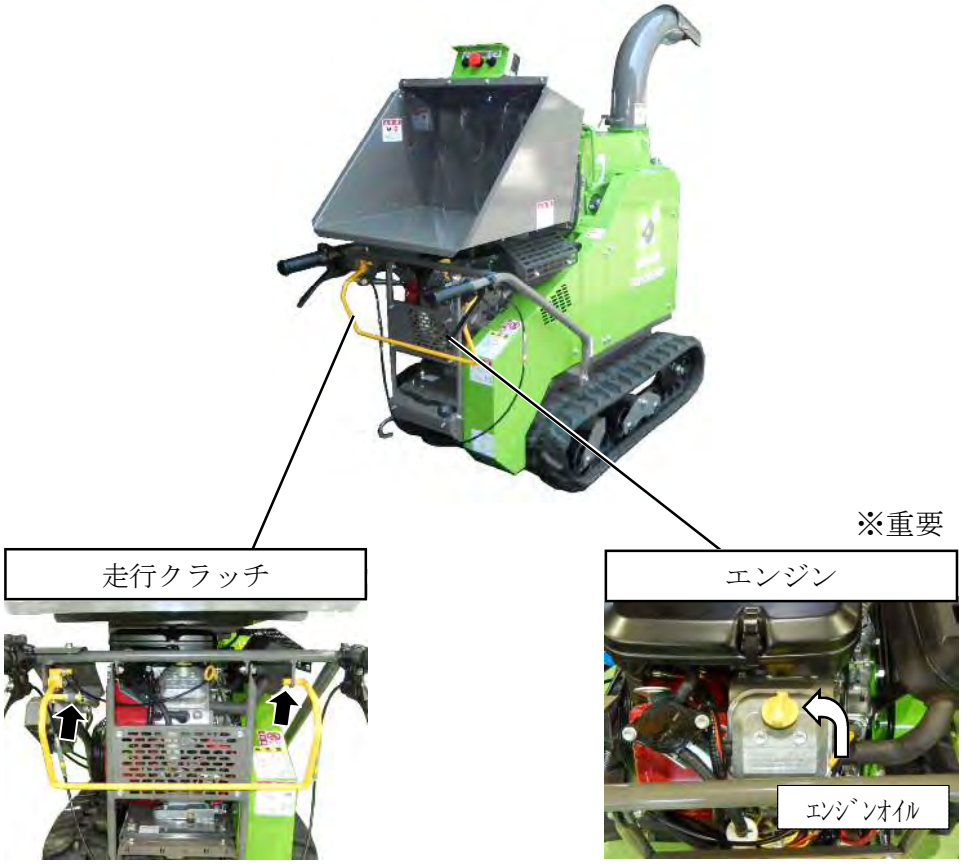
給油・注油するところ

注意	給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なって下さい。

注油

給脂（グリース）

給油



給油・注油するところ

注意	給油や注油を怠ると本機において、不具合や故障の原因となりますので定期的に給油・注油を行なって下さい。

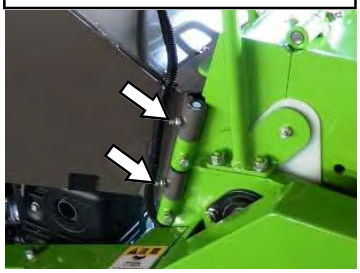
注油　給脂（グリース）

給油

ロータカバー

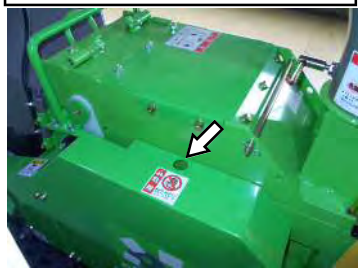
※重要

ホッパ

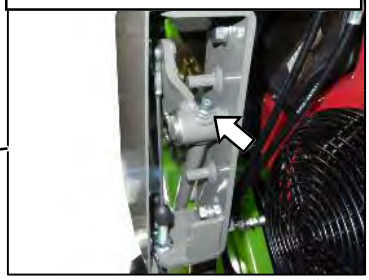


パワーパック

ユニットベアリング



ロータクラッチレバー



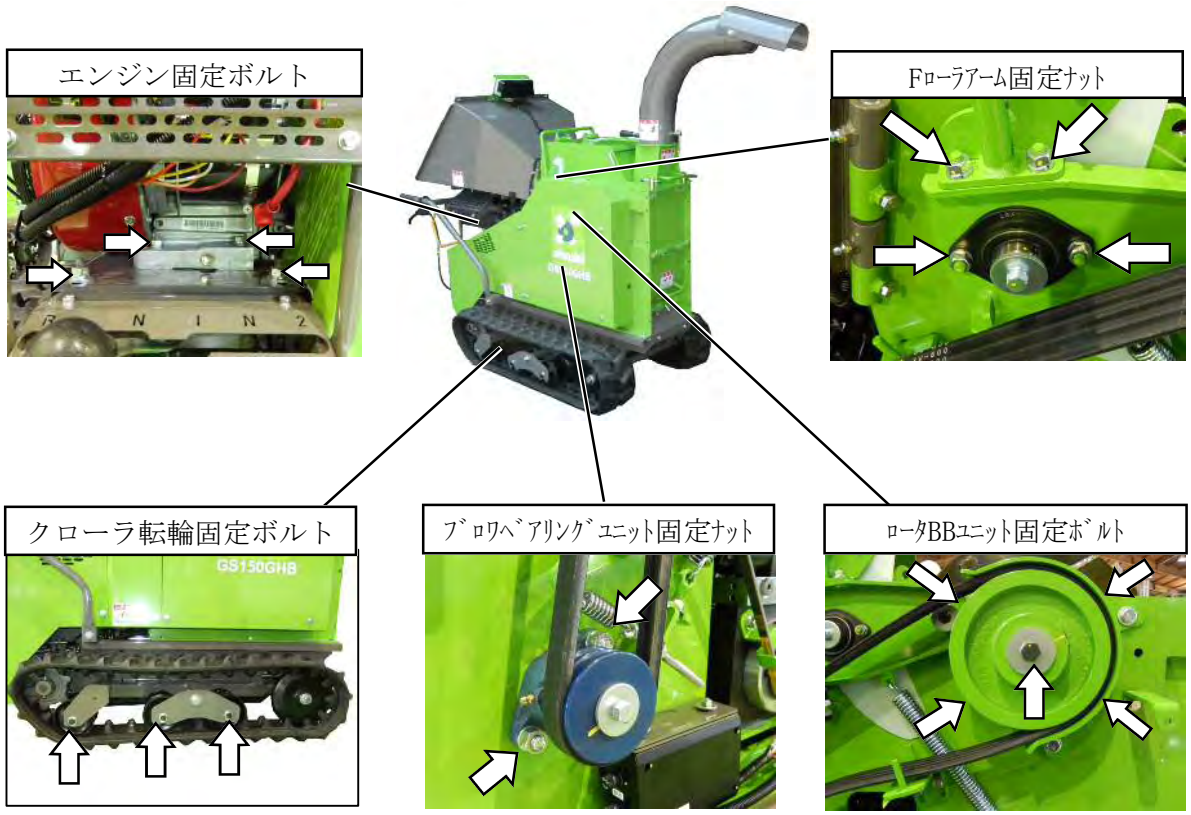
ユニットベアリング

燃料タンク

ミッション

締付するところ

注意	ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に 各主要部の締付ボルト・ナットの増し締めを行って下さい。



作業後の手入れ／長期保管

作業後の手入れ

1. 手入れをする前に次の手順で準備作業を行って下さい。

   (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

   (2) シフトレバーを「ニュートラル」位置にして下さい。

   (3) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

2. 作業を行ったその日の内に、まず水洗いをして機械についたほこり・木屑・泥土等を洗い落して下さい。

注　意　1

ロータハウジング下の電装部品（黒い箱）には、水をかけないように注意して下さい。

洗浄箇所

(1) ホッパ
(2) 送りローラ
(3) ロータハウジング
(4) クローラ

注　意　2

エンジンまわり電装品は水洗いせず、圧縮空気やブラシ・布などでほこり・木屑・泥土等を落として下さい。

3. 水洗い後は水分を良く乾燥させて、各回転・しゅう動部に油をたっぷり注油して下さい。

4. 3. で注油できなかった部分に、同様に油をたっぷり注油して下さい。

長期保管

１．燃料

機械を３０日以上保管する場合には、燃料が劣化します。劣化した燃料は燃料システムや重要なキャブレタ部品中の酸やゴム質の沈着物の原因となる可能性があります。これを防ぐために以下の要領でタンク内の燃料に燃料劣化防止剤を添加してください。

(1) 給油口のキャップを左にまわして外し、付属の燃料劣化防止剤を１０Ｌのガソリン当たり一包入れてください。

(2) 給油口のキャップを元に戻してください。

(3) エンジンを５分程度運転し、燃料劣化防止剤がキャブレタに循環するようにしてください。これによって、**エンジンおよび燃料は最大２４ケ月間保管**できます。

(4) エンジンキーをＯＦＦの位置にし、エンジンを停止します。

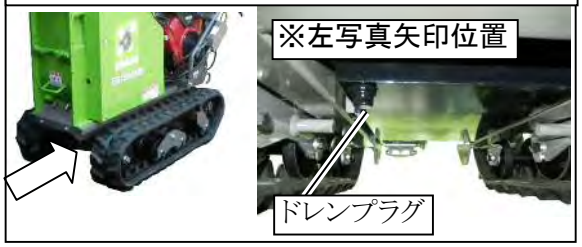
作業後の手入れ／長期保管

燃料劣化防止剤を使用しない場合は、以下の要領で保管時には燃料タンクやキャブレタ等の燃料システムからガソリンを完全に抜いてください。

(1) 給油口のキャップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料とゴミを取り除いてください。

(2) ドレンプラグの下に受皿等を当ててからタンク内の燃料を抜いてください。

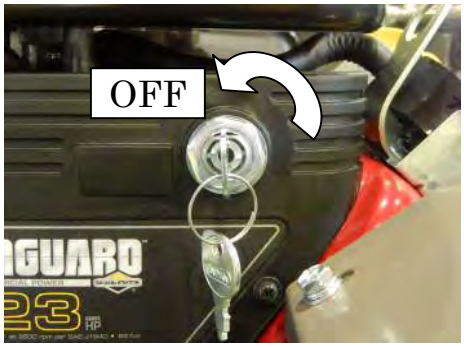
ドレンプラグ



(3) 給油口のキャップを元に戻してください。

(4) エンジンを始動し、燃料が切れてエンジンが停止するまで運転します。

(5) エンジンキーをＯＦＦの位置にし、エンジンを停止します。



２． 清掃し注油する

(1) 各部をよく洗った後、機械の全注油、給脂（グリース）個所に、注油・給脂をしてください。

(2) エンジンオイルは新しいオイルと交換しておいてください。

(3) エアクリーナは、エレメントを外し清掃後、再度取り付けてください。

３． 格納する

各部を油布で清掃し、カバーをかけてください。格納は湿気、ほこりの少ない所にしてください。屋外に放置する場合は、シートを被せてください。

４． 充電する

１ケ月に１回程度エンジンをかけて本機を動かし、エンジン・油圧系に潤滑油が行き渡るようにするとともに、補充電をしてください。

作業後の手入れ／長期保管

注　　意

寒冷地では、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。
又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。（無理に動かした場合の事故については責任を負いかねますので特にご注意下さい。）

付属工具一覧

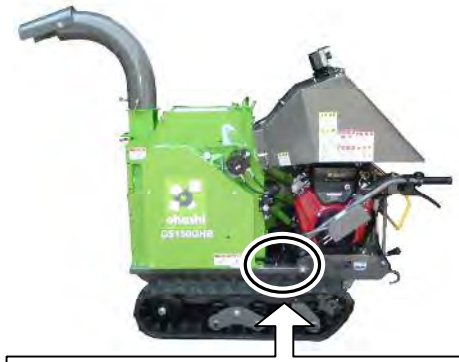
機械を使用する前に、付属工具が揃っている事を確認して下さい。

≪付属工具一式　品番･･･14509900000≫

NO	工具名	サイズ	数量
1	両口スパナ	8×10	1
2	〃	10×13	1
3	〃	13×17	1
4	〃	17×19	1
5	〃	22×24	1
6	メガネレンチ	17×19	1
7	T型ハンドル	3/8	1
8	六角棒スパナ	3mm	1
9	〃	4mm	1
10	〃	5mm	1
11	〃	6mm	1
12	〃	8mm	1
13	ﾌﾟﾗｸﾞﾚﾝﾁ	16mm	1
14	ﾌﾟﾗｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｰ	NO.2	1

≪その他工具・付属品≫

品番	工具名・付属品名	数量
12006570001	ﾛｰﾀﾛｯｸﾋﾟﾝ (六角ﾚﾝﾁ付)	1
10726990000	ﾅｲﾌ調整ｹﾞｰｼﾞ (150mmｽｹｰﾙ付)	1
－	シールテープ	1



消耗部品一覧表

品　　名	品　　番	数／台	交換目安時間 備　　考
作　業　機　関　係			
チッパナイフ	１１１０６２２０００００	2	片面２５時間
受　　刃	１１１２６３２０００００	1	片面７５時間
シュレッダーナイフ	１１１０６２５０００００	8	１角５０時間
ロータベルト（4R3V-800）	Ａ８１３Ｖ０４０８００	1	適宜交換
走行ベルト（SA-38）	Ａ８１ＳＡ０１００３８	1	適宜交換
パワーパックベルト（RAF2425）	Ａ８１ＡＦ０４２５００	1	適宜交換
ブロワベルト（RAF2400）	Ａ８１ＡＦ０４００００	2	適宜交換
ロータベアリングユニット	Ａ７０２０Ｘ０８０００	2	５００時間
送りローラ ベアリングユニット	Ａ７０５５２０５０００	1	１０００時間
ブロワベアリングユニット	Ａ７０３０Ｃ２０４００	2	５００時間
ブロワフィン	１４５０６４５００００	2	３００時間
エ　ン　ジ　ン　関　係			
エアフィルタ	６９２５１９	1	２００時間毎
エアクリーナプレクリーナ	６９２５２０	1	２００時間毎
燃料フィルタ	６９１０３５	1	４００時間毎
エンジンオイルフィルタ	８４２９２１	1	１００時間毎
スパークプラグ (ﾁｬﾝﾋﾟｵﾝ製　XC92YC)	４９１０５５Ｓ	2	１００時間毎
油圧関係			
油圧ホース（上）	１１１２３５１０００００	1	２年毎に交換
油圧ホース（下）	１１１２３５２０００００	1	２年毎に交換
油圧ホース（ダイヤル）	２１１２３７５０００００	2	２年毎に交換（※）
バッテリ・電気関係			
バッテリ（34A19RT）	１４５０９６１０００００	1	２年毎に交換
ヒューズＡ	Ａ９９０５２１２５１０	1	全体（１０Ａ）
ヒューズＢ	Ａ９９０５２１２５０１	1	ﾊﾞﾙﾌﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ基盤 （１Ａ）

・オイルは、オイル交換の項をご覧下さい。

（※）GS150GHBまたはオプション取り付け時

こんなトラブルが起ったら

エンジンを止めてから点検してください

	こんな確認をして	こう処置する
	(1) セルモータを回してもエンジンがかからない時	エンジン非常停止スイッチが押されていないか確認して下さい。（右に回すと解除します）
エンジンがかからないとき	(2) 燃料が切れていないか	燃料の補給をする
	(3) 燃料が燃焼室に吸込まれているか	キャブレタを清掃する 燃料フィルタを交換する
	(4) エンジンの始動手順が間違っていないか	正しい始動手順でエンジンをかける
	(5) 燃料に水が入っていないか	燃料タンクに水が溜まっていればドレンプラグを開いて底にたまった水を排出する キャブレタや燃料フィルタを外して水抜きする
	(6) 長期保管時の古い燃料が残っていないか	燃料タンク・燃料フィルタ・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料と交換する。特にキャブレタは、メーンジェットの穴が詰まるので念入りに掃除をする
	(7) 点火プラグが悪くなっていないか	点火プラグを外し、濡れていれば、火であぶるか、乾いた布などで良く乾燥させる。 点火プラグの火花間隔（0.6～0.7㎜）を調整し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換する ≪注意≫ 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付け、プラグキャップを確実に差し込むこと
エンジンの力がないとき	(1) エアクリーナにゴミがたまっていないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する
	(2) ブロワハウジングの吸気口にゴミがたまっていないか	ゴミを除去し、きれいに清掃する
	(3) エンジンオイルが不足していないか	エンジンオイルを補給する。また、オイルが古くなっている場合、新しいオイルと交換する
	(4) エンジンの回転は上がるか	スロットルレバーの遊びを減らす。スロットルワイヤのズレを直す
	(5) エンジンの圧縮はあるか	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付ける ピストンリング等の磨耗も考えられるので購入先に相談する
材料が噛みこんでエンジンが停止したとき		エンジンキースイッチを『OFF』位置にし、噛み込んだロータを解除して下さい（Ｐ３６参照）
各部に振動が多いとき	(1) エンジンが振れていないか	エンジン取付ボルトを強く締め直す
	(2) チッパナイフ外れていないか取付ボルトが外れたり緩んでいないか	チッパナイフを正しく付け直す 取付ボルトを強く締め直す （締付トルク110N.m）
	(3) ロータハウジングが振れていないか	ロータハウジング取付ボルトを強く締め直す
	(4) ロータ軸受けが破損していないか	ロータ軸受けを交換する

送り制御チェック項目一覧

-送りローラが回転しない-

＜正転しない時＞

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	エンジン回転	低い	スロットルレバーを[高]にまわす		
2	エンジン回転	低い(ｽﾛｯﾄﾙﾜｲﾔのｽﾞﾚ)	スロットルワイヤのズレをなおす		
3	送りスイッチ(前方)	故障している	送りSWを交換する		
4	配線コード	断線している	配線コードを結線する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX-電磁弁
5	電磁弁	故障している	電磁弁を交換する		
6	コントロール基板	故障している	コントロール基板を交換する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX内

＜逆転しない時＞

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	送りスイッチ(後方)	故障している	送りスイッチを交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX-電磁弁
3	電磁弁(ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸ)	故障している	電磁弁を交換する		

＜どちらも動かない時＞

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	パワーパックベルト	切れている	パワーパックベルトを交換する		
2	パワーパックベルト張り	緩んでいる	パワーパックベルトを張り直す		
3	パワーパック油量	不足している	作動油を補給する		
4	パワーパックのアース	アース不良	塗装・サビの除去		
5	送りローラ	物がひっかかっている	ひっかかっている物を除去する		
6	配線コード	断線している	配線コードを結線する		
7	送り速度調整ダイヤル	「遅」になっている	送り速度調整ダイヤルを「速」にする		流量調整弁 GB/OP時

〈自動制御が効かない(材料は送り込むが、自動停止せずエンジンが止まる〉

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	ヒューズ(1A)	切れている	ヒューズ(1A)を交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		キーSW-基板
3	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板	故障している	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板を交換する		

〈小枝モードは正常だが、標準モードで正送りしない〉

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	エンジン回転	低い	スロットルレバーを「高」に回す		
2	コントロール基板				

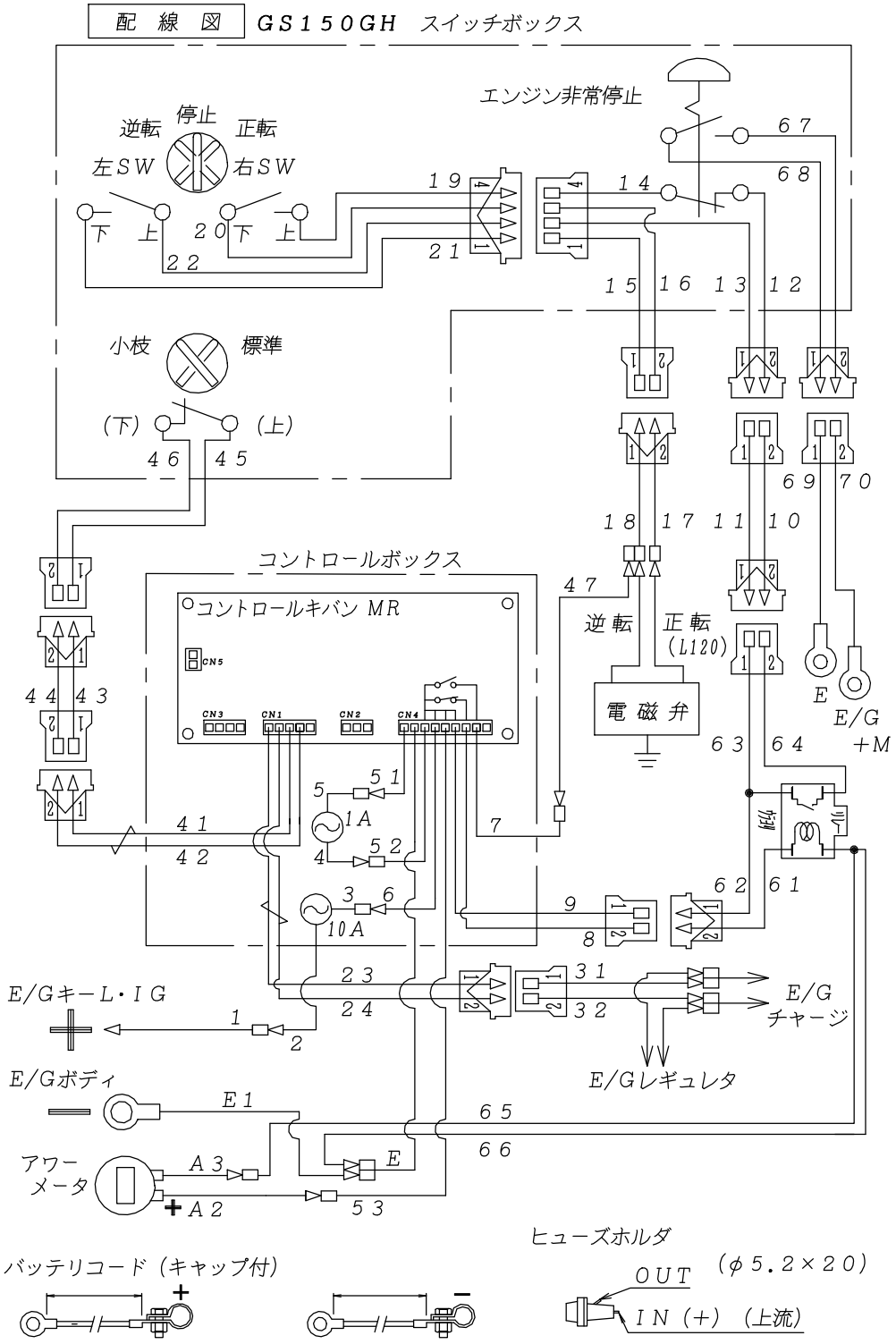
〈標準モードは正常だが小枝モードで正送りしない(小枝モードに切り替わらない〉

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	粉砕モード切替スイッチ	断線・故障	修理する・交換する		
2	コントロール基板				

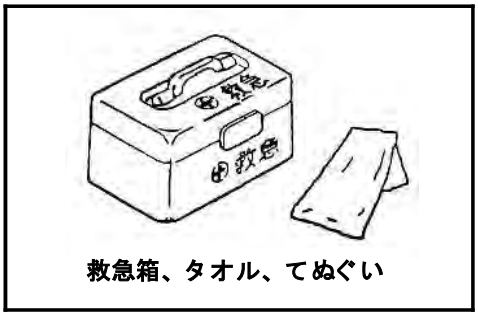
〈小枝モードは正常だが、標準モード切替でも小枝モードの制御である〉

	箇　所	原　因	処　置	チェック	備　考
1	粉砕モード切替スイッチ	断線・故障	修理する・交換する		

配線図


配 線 図
GS150GH スイッチボックス
エンジン非常停止
逆転
停止
正転
左SW
右SW
下
上
20
22
19
21
14
67
68
15
16
13
12
小枝
標準
(下)
(上)
46
45
69
70
18
17
11
10
コントロールボックス
コントロールキバン MR
CN5
CN3
CN1
CN2
CN4
47
逆転
正転
(L120)
電磁弁
44
43
E
E/G
+M
63
64
51
5
1A
4
52
41
42
7
3
6
10A
9
8
62
61
23
24
31
32
E/Gキー L・IG
1
2
E/G
チャージ
E/Gレギュレタ
E/Gボディ
E1
65
66
アワー
メータ
A3
E
A2
53
ヒューズホルダ
OUT
(φ5.2×20)
IN (+) (上流)
バッテリコード (キャップ付)
+
−

万一の事故に備えて



●作業の前に

・ 万一の事故に備え、電話機もそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・ 作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

・ 作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。

●発火に対する備え

危　　険

万一、エンジンから、発火または発煙したら、ただちに、機械を停止させ、スイッチをOFF位置にして、まず消火すること。この場合、自分の身体の防御にも充分注意すること。

・ エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を停止させ、スイッチをＯＦＦ位置にし、消火してください。

・ 自分の身体を、火災その他の傷害から守るよう注意してください。

・ 草、木などに類焼しないよう注意してください。

・ スコップで砂などをかけるか、または油火災消火用の消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・ 万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗ふき用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

● 応急手当

・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買い求め先へお問合わせください。

●ご使用機の型式名と機体番号は？購入年月日は？

型　　式	GS150GH GS150GHB
機体番号	
購入年月日	年　月　日

●ご使用状況は……？
（どんな作業のとき等）

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教え下さい。

●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談下さい。

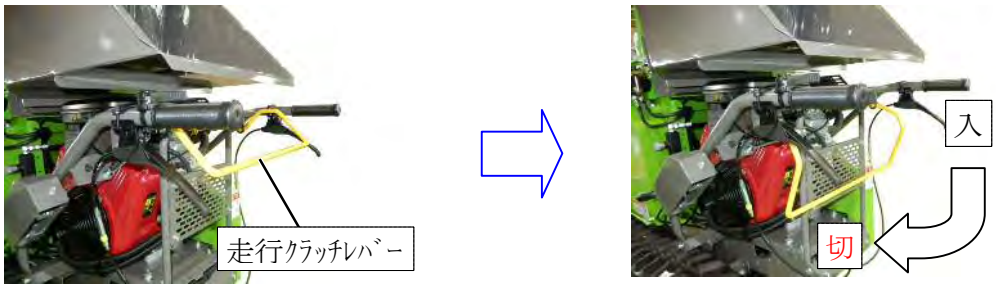
販 売 店

担 当 者

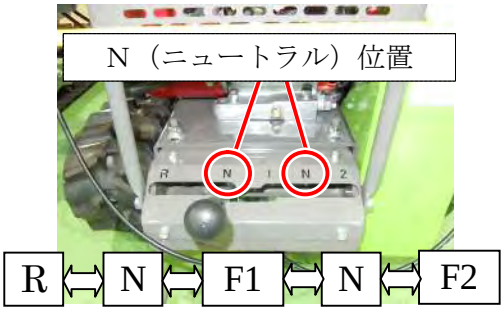
Ｔ Ｅ Ｌ　　（　　）

GS150GH /GHB 使 用 手 順 書

① 走行クラッチレバーを「切」位置にします。(駐車ブレーキも同時に入ります。)

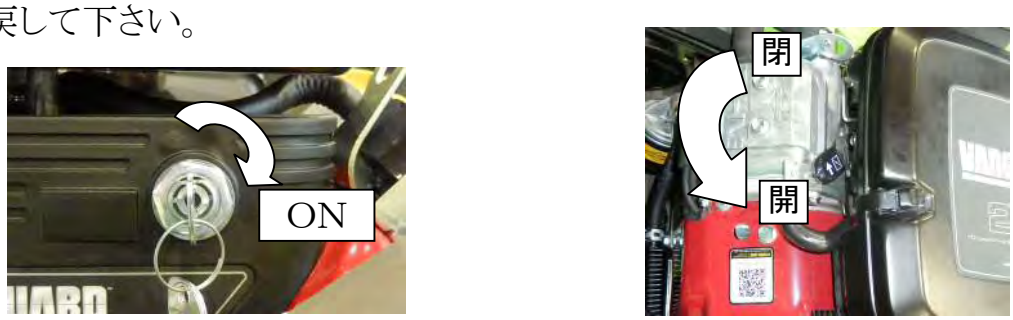


② シフトレバーを「N」の位置にします。

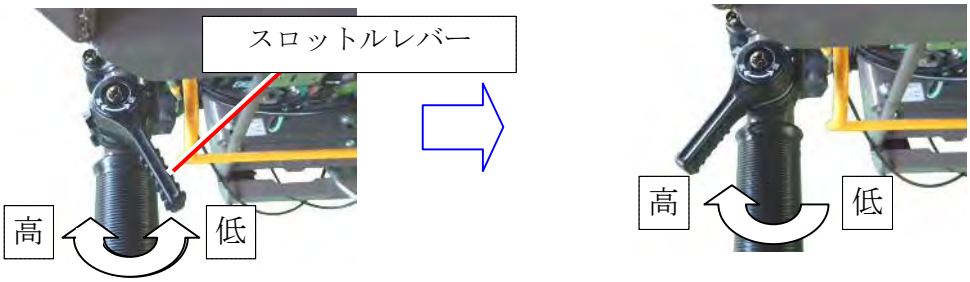


③ スロットルレバーを「中」位置にし、チョークノブを「閉」方向にします。

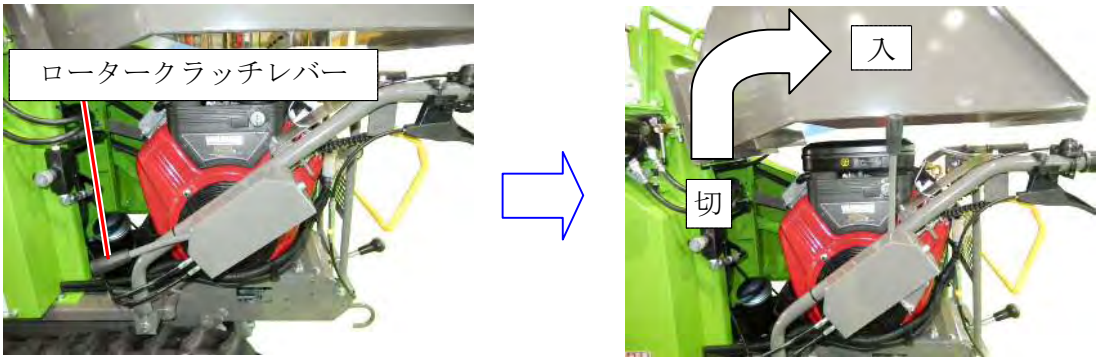
④ キースイッチを「ON」方向に回しエンジンをかけます。チョークノブを「開」方向に徐々に戻して下さい。



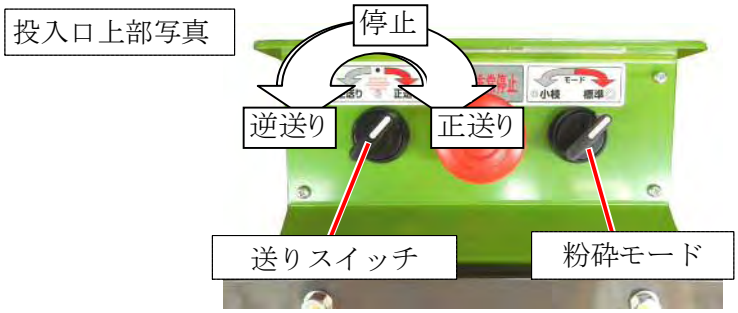
⑤ スロットルレバーを徐々に「高」位置にします。(フルスロットルにします)



⑥　ロータークラッチレバーを「切」からゆっくりと5秒ほどかけて「入」方向へ上げます。



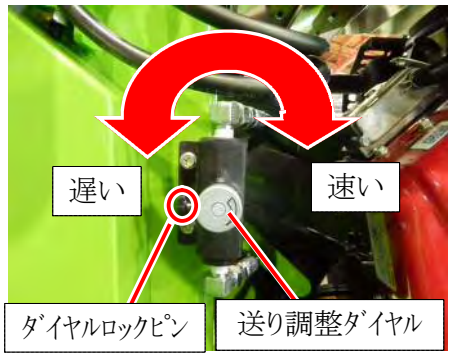
⑦　投入口上部の粉砕モードを「標準」へ、送りスイッチを「正送り」へすると、
粉砕作業が出来ます。



⑧　作業が終わりましたら、⑦送りスイッチ「停止」→⑤スロットルレバー「低」位置
→　⑥ロータクラッチレバー「切」 の順で、始めの位置に戻し終了してください。

スクリーン　5mm　～　8mm　利用時の送り速度調整ダイヤルの仕方

※この操作はGS150GHBまたはオプションで送り速度調整ダイヤルを取り付けた場合の操作です。



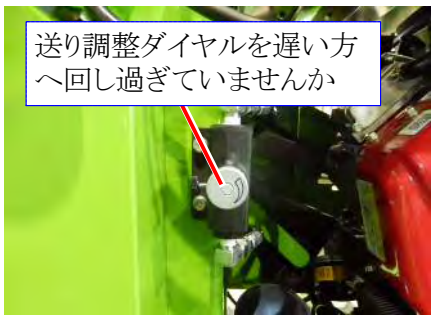
※5㎜ ・ 8㎜ スクリーンをつけた場合のダイヤル調整方法は、
送り調整ダイヤルを左方向（遅く）へ全部回し、投入口に直径7cm
前後の竹や木を投入し、下記の要領で行ってください。

5㎜ ・・・右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから
更に1回転させてダイヤルロックピンで固定します。

6㎜ ・・・右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから
更に1回転半させてダイヤルロックピンで固定します。

8㎜ ・・・右方向（速い）へ回していき、竹や木が入りだすところから
更に2回転させてダイヤルロックピンで固定します。

※送りローラが回らないときは、下記に注意してください。



始 業 点 検 表

型式

GS150GH／GHB

機体番号

お客様名	フリガナ

販売店	

	日付 ／ 点検項目	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
1	エアクリーナの清掃・点検 ※1参照										
2	エンジンオイルの量・汚れ OIL002 （SF級以上）※2参照										
3	作動油の量・汚れ OIL001（ISO VG46相当粘度）										
4	チッパナイフの欠け・磨耗 11106220000S										
5	受刃の欠け・磨耗 11126320000										
6	シュレッダナイフの欠け・摩耗 11106250000S										
7	ナイフ、受刃ボルトの増締め ※4										
8	各部のグリースアップ （グリースはリチューム系）										
9	各部への給油・注油										
10	エンジン、クローラの清掃										
11	ベルトの磨耗、亀裂 ※5 参照										
12	使用時間合計	H	H	H	H	H	H	H	H	H	H

※1 エアフィルタ（品番：692519） プレクリーナ（品番：692520）

※2 エンジンオイルは初回5時間、以降50時間毎に交換して下さい。オイルフィルタ（品番：842921）は初回のオイル交換ではオイルフィルタの交換は推奨しておりません。2回目以降のオイル交換の際に毎回同時交換して下さい。

※3 ﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ ＃80

※4 チッパナイフ・受刃の固定ボルトは締付トルク110N・mで締付を行って下さい。

※5 走行ﾍﾞﾙﾄ（SA-38）品番：A81SA010038 ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸﾍﾞﾙﾄ（RAF2425）品番：A81AF042500
ﾛｰﾀﾍﾞﾙﾄ（4R3V-800）品番：A813V040800 ﾌﾞﾛﾜﾍﾞﾙﾄ（RAF2400）品番：A81AF040000

株式会社　大　　橋

佐賀県神埼市千代田町崎村４０１
TEL：0952-44-3135
FAX：0952-44-3137
Ｅ-mail：eco@ohashi-inc.com
http：//www.ohashi-inc.com/